

脱炭素・GREEN×EXPO・みどり環境・資源循環委員会記録

【 速 報 版 】

令和7年9月18日開会

速報版

- この会議録は録音を文字起こした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものため、今後修正されることがあります。
- 正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

開会時刻 午前10時00分

◎ 開会宣告

- 大桑正貴委員長 これより委員会を開会いたします。



◎ 委員席の指定

- 大桑正貴委員長 審査に入ります前に、過日の運営委員会において、会派順序の変更が確認されましたことに伴い、委員席につきましては、名立てのとおり指定いたします。

磯 部	佐藤(茂)	鴨志田	花 上	宇佐美
副 委 員 長	委 員	委 員	委 員	委 員
大 桑				
委 員 長				
大 山	久 保	市 来	こがゆ	長谷川 (え)
副 委 員 長	委 員	委 員	委 員	委 員

◎ 局長挨拶及び職員紹介（部長職以上）

- 大桑正貴委員長 それでは、脱炭素・GREEN×EXPO推進局関係に入ります。

初めに、9月1日及び9月8日付で職員の異動がありましたので、折居局長の挨拶及び職員の紹介がございます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 9月8日付で脱炭素・GREEN×EXPO推進局長に就任いたしました折居良一郎でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

脱炭素化の推進、GREEN×EXPO 2027、上瀬谷のまちづくり、これらの取組をしっかりと実行し、新たなグリーン社会の実現に向けて、局一丸となって取り組んでまいります。どうか委員の皆様方、よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、9月に人事異動がありました当局の職員を紹介させていただきます。

(職 員 紹 介)



◎ 市第29号議案の審査、採決

- 大桑正貴委員長 ありがとうございました。それでは、審査に入ります。

なお、当局からの発言に際しては着座のままでお願いいたします。

初めに、市第29号議案を議題に供します。

市第29号議案 都市計画道路瀬谷地内線（相模鉄道線交差部分）整備工事委託契約
の締結

- 大桑正貴委員長 当局の報告を求めます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 市第29号議案、都市計画道路瀬谷地内線（相模鉄道線交差部分）整備工事委託契約の締結について、御説明いたします。

議案書では115ページとなりますが、本日は、お手元の資料に基づき説明させていただきます。

資料1を御覧ください。

1ページにお進みください。概要ですが、瀬谷地内線は、中原街道の二ツ上橋交差点を起点とした都市計画道路でございます。旧上瀬谷通信施設地区内の道路を経由して、八王子街道までを結びます。

右の図を御覧ください。右下の緑色の枠でお示ししました破線部分が瀬谷地内線の二ツ橋中部地区になります。

次に、左下の図を御覧ください。赤丸で示した位置が、瀬谷地内線が相模鉄道と交差する工事箇所になります。運行上の安全確保等を図るため、相模鉄道株式会社に工事を委託します。

2ページ目にお進みください。委託工事の内容でございますが、委託工事概要は、仮設工一式、地盤改良工一式、管渠工延長15.4メーター、幅16.4メーターです。契約金額は21億210万円です。履行期限は令和12年3月29日。契約の相手方は相模鉄道株式会社でございます。

（5）委託工事理由でございますが、鉄道の安全運行を確保しながら、線路下において管渠を築造する必要があるため、施設管理者として、運行上の保安や維持管理、緊急時対応等の体制を備え、また、同種の工事による技術的知見を有する相模鉄道株式会社に工事を委託するものでございます。

なお、資料の右上には、完成時とEXPO開催時の断面図を掲載しております。EXPOの開催時は、一時的に車両が通行できるよう工事を進めてまいります。

説明は以上でございます。御審査のほど、よろしくお願いいたします。

- 大桑正貴委員長 ありがとうございます。説明が終わりましたので、質疑に入ります。
- 宇佐美さやか委員 説明ありがとうございます。鉄道との交差ということで、今回相模鉄道株式会社と契約ということです。この金額の妥当性というのはあるのかお伺いします。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 工事の内容につきましては、これまでの工事費等を勘案しまして、また今の物価上昇ですとか工事費を積算いたしまして算出しておりますので、この金額については妥当だというふうに考えております。
- 宇佐美さやか委員 これまで相模鉄道さんも工事をされてきた件の中からの算出という認識でよろしいですか。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 妥当性を確認しておりますので、この金額で妥当だというように考えております。
- 宇佐美さやか委員 工事の進捗状況とか施工業者と横浜市とちゃんと内容とかも共有できるようにしていって、前後が市施工の工事というふうになっているので、整合性はしっかりと取れるようにしていただきたいと思うのですが、その点はいかがでしょうか。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 今回、相模鉄道に施工を委託する箇所と横浜市が施工する箇所というものは明確に分割して施工してまいりますので、そこにはそごがないように施工していきたいと思っております。
- 宇佐美さやか委員 そごがないようにしっかりやっていただきたいのですけれども、近年多発している局地的な豪雨によってアンダーパスでの道路冠水が各地で起きているので、局地的な大雨による冠水時の対策などはどうなっているのか伺います。

- 渡邊上瀬谷整備事務所長 アンダーパス部につきましては、自動排水ポンプというものを設置することになっておりまして、工事中につきましても工事用のポンプ等をつけて排水をしていくということで、安全性を図ってまいります。
- 宇佐美さやか委員 ポンプをつけるということですが、入り口と出口に何か回転灯をつけるというふうにも聞いているのですが、通行できるようになった場合はそういった対策を取るという考えでよろしいですか。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 委員のおっしゃるとおりでございまして、排水ポンプをつけるだけではなくて、そこに車が進入しないように警報装置をつけて、それも進入を制御していきたいというふうに考えております。
- 宇佐美さやか委員 工事中の対策、工事中に大雨が降らないとも限らないので、そこはしっかりと対策していただいて、事故にならないようにだけはしていただきたいと思いますので、議案には賛成いたします。
- 花上喜代志委員 この委託工事の現場については、地元なんでよく分かっておりますけれども、ここは都市計画道路ではなかったですよね。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 この道路は、都市計画道路になります。
- 花上喜代志委員 住宅が何軒も建っていた場所にこの工事を行うということだったんで、立ち退き交渉とかそういうのがうまくいくのかどうか非常に懸念していたところでありましたけれども、それは問題なく地権者の了解が得られたと。それに基づいて工事が国際園芸博覧会に間に合うように進めていけると、こういう見通しが立ったと、こういうことなのですね。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 委員のおっしゃるとおり、この都市計画道路を造るに当たりまして、地権者の皆様に御協力をいただいているところでございます。現在のところ約94%の用地取得率でございますが、今年度中にはほぼ見込みが立っていますので、工事については支障なく進めていけるというふうに考えております。
- 花上喜代志委員 それを聞いて安心しましたけれども、園芸博まで1年6ヶ月というふうに大分開催時期が迫ってきた中での工事なんで、今の状況は見通しどおり順調に工事が進んでいるのかどうか、これについての考え方を聞かせてくださいな。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 今回の相鉄に委託する工事の前に、当然仮設ヤードですとかそこに進入するための道路というような仮設的な工事をやってまいりました。今回ここで委託することによって、相鉄の線路下に掘削して、いわゆるここに書いてあります管渠工というのを設置していく予定でございますが、E X P O のときには管渠工が、今の説明のとおり、完成には至りませんので、仮設の段階で車両を通すという形を取りたいというふうに考えております。
- 花上喜代志委員 そうすると、仮設で園芸博には使えるように工事を進めるけれども、全体的な完成するというのはいつをめどと考えているのですか。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 現在の予定ですと、10年度に開通をさせて、12年3月に完成していきたいというふうに考えております。
- 花上喜代志委員 上瀬谷のまちづくり、それから前段の園芸博については、地元のほうから交通渋滞とか交通事故とか交通公害とかいろいろな心配の声がかなりあったわけですけれども、この工事が今のお説明のように順調に進んで、使えるようになるということになれば、かなり皆さんのお心配は払拭されるのではないかかなというふうに思います。

特に八王子街道までこれをつなげていくと、こういうことになりますので、八王子街道まではいつ完成する見通しなのか、それを教えてください。

- 渡邊上瀬谷整備事務所長 八王子街道までつなぐためには、旧上瀬谷通信地区で今行われています区画整理で行っている道路を完成させなければいけませんので、その完成が博覧会後になります。ですので、博覧会後に八王子街道にはつながるという予定でございます。
- 花上喜代志委員 博覧会後というと、具体的には令和何年度になるのですか。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 令和10年度程度にはつなげていきたいと思っております。ただ、今のところはもう少し検証が必要かというふうに考えております。
- 花上喜代志委員 この道路に関連して、三ツ境下草柳線の工事も同時並行で進めていくと、こういうことだろうと思いますけれども、そちらとの整合性をどのように図っていく見通しなのか、それをちょっと教えていただきたいと思います。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 三ツ境下草柳線は、今、二ツ橋の区画整理で整備をしておりますが、その開通時期は8年の秋ぐらいに開通するという予定になっております。それに併せて東野住宅のほうに向かう道路と接続ができるというふうに考えております。
- 花上喜代志委員 これに関連して、今、瀬谷柏尾線に相鉄線の相沢の踏切がありますけれども、この相沢の踏切については、瀬谷地内線の関連としてずっと使えるように、今までどおり使えるようになるのか、その辺りの見通しはどうですか。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 今、踏切については閉鎖する予定がございませんので、今までどおり使うことになるというふうに考えております。
- 花上喜代志委員 以上で結構です。
- 久保和弘委員 ほかの委員と重なるところは要望みたいな形でさせていただきますけれども。まずアンダーパスのところで、先ほど浸水対策について指摘がありましたけれども、近年やはり浸水の被害が全国で多発しているということを鑑みますと、対策が必要だと思うのですが、1時間降雨当たりどれくらいの目安で整備されるのかというのと、例えば先ほどアラームみたいなもの、警報器を設置するとありましたけれども、いわゆるサイネージ的なものでしっかりと注意喚起する必要があるかと思いますけれども、その辺の浸水対策についてはどのようにやっていくのかということを1点確認させてください。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 時間降雨50ミリ程度の対応はできるものと考えております。
あと先ほどの繰り返しになるのですが、車の進入を制御するための装置、いわゆるサイネージ等をつけるということについてはまだ検討をしておりますが、警報はつきますが、サイネージについてはまだ検討最中ということで、今日は回答させていただきたいと思います。
- 久保和弘委員 しっかり検討いただいて、必要あらば設置いただくことをお願いしておきたいと思います。
先ほど供用開始といいますか、開通については12年3月頃という話がありましたけれども、資料によりますと、2ページのところに断面図というところで、EXPOの開催時という図面がありますね。すなわちEXPOのときは一時開通をして、EXPOが終われば開通に向けての工事に入るということになりますけれども、地域の方々からしっかりと開通ができるだけ早くやっていただきたいと。そういう声があるのは事実でありますので、要はEXPOが終わりましてどれぐらい封鎖するというか、工事してその期間、それから開通に向けてどのようにやっていくのかということを御説明いただきたいと思います。

- 渡邊上瀬谷整備事務所長 EXPO時に一時的に閉鎖した後、1年ぐらいで開通をしていきたいというふうに考えておりますが、どうしてもその後に周りの復旧工事とかいわゆる仮設で造ったものの片づけ等もございますので、その辺を整備した上で開通時期は明確にしていきたいというふうに思っております。
- 久保和弘委員 種々地域に対する配慮もあるうかと思いますけれども、その辺を地域に対してしっかり説明をなさっているということでおよろしいでしょうか。地域の声をお届けしたいと思いますので。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 委員のおっしゃるとおり、もしこれを開放しながらやりますと、片側交互通行で施工していくということになります。また、工事の時間帯も終電から始発という大変短い時間の中で工事をやっていくということもございますので、どうしても閉鎖すると長い工事期間がかかつてしまうことがありますので、こちらにつきましては、これまで連合町内会長が集まる会合ですか近隣の住民を対象とした説明会を実施しております、やっぱり早く完成してほしいという声が多く、皆さんには御理解を頂いて進めているということになります。
- 久保和弘委員 ありがとうございます。次に、二ツ上橋の当該事業が接するところの始点となるんでしょうか、二ツ上橋交差点について、現状すごい渋滞をしているということがありまして、かつて私も予算か決算か忘却ましたが、審査会におきまして取り上げまして、当時質疑では右折レーンを設置するという答弁を頂戴したところでありますけれども、右折レーンはどれぐらいの長さ、要は車がどれぐらい滞留できるのか、あそこの交差点はガソリンスタンドがあつたりいろいろありますけれども、その効果というのか、やはりあそこはボトルネックになっていることがありますので、そこについての右折交差点をどのようなイメージで描いているのかということを確認させていただきたいと思います。

○ 渡邊上瀬谷整備事務所長 中原街道の右折帯が現在短いものですから、その右折帯を長くすることによって、右折の滞留長を延ばそうというふうに考えております。そのことによって、中原街道の渋滞を緩和できるというように考えておりまして、現在20メートルほどの右折帯を延ばすという計画でおります。

○ 久保和弘委員 限られた用地の面積ですので、20メートルという御答弁でございましたけれども、右折レーンの効果は非常に高いと私は考えますので、現状最大限の配慮を頂いて取り組んでいただきたいということを要望させていただきたいと思います。

最後になりますけれども、二ツ上橋からさらに二ツ橋交差点の間、こちらも非常に渋滞しております。正直私も毎日ほぼ通りますけれども、必ず右折ができない状況になるのですね。ですから、当局の所管としては、瀬谷地内線というのは二ツ上橋を始点として環状4号線のほうまで、八王子街道のほうまで結んでいくようなこともあるかと思いますけれども、市民目線から見たら、二ツ上橋交差点の渋滞を解消するということも必要かと思いますけれども、そこに対する取組、これを確認させてください。

○ 渡邊上瀬谷整備事務所長 県道下の瀬谷柏尾線における委員のおっしゃっている二ツ橋交差点から上橋までの間なのですが、こちらにつきましては現在、土木事務所のほうで改良工事を実施しております、ここにつきましてスケジュール感はまだ今確認できていないのですが、間違いないここについても改良していくという方向になっております。

○ 久保和弘委員 ここは、都市整備局から土木事務所の所管になるかと思いますけれども、繰り返しますけれども、二ツ上橋交差点での交通渋滞の解消、瀬谷区においては非常に狭隘道路というか、交通渋滞が地域の課題で御要望の多いことありますので、その解消に向けて区局と連携してしっかり取り組んでいただくことをここでお願いしておきたいと思います。

- 渡邊上瀬谷整備事務所長 先ほどサイネージのお話があったのですが、電光掲示板、いわゆるサイネージも設置してまいります。訂正させてください。
- 久保和弘委員 承知しました。
- 大桑正貴委員長 では、他に御発言もないようですので、本件については質疑を終了し、採決することに御異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)
- 大桑正貴委員長 それでは、採決いたします。
本件については、原案のとおり可決することに御異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)
- 大桑正貴委員長 御異議ないものと認め、市第29号議案については原案可決と決定いたします。



◎ GREEN×EXPO 2027の開催に向けた取組状況について

- 大桑正貴委員長 次に、報告事項に入ります。
初めに、GREEN×EXPO 2027 の開催に向けた取組状況についてを議題に供します。
当局の報告を求めます。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 GREEN×EXPO 2027 の開催に向けた取組状況について御説明いたします。資料2を御覧ください。
1ページにお進みください。本日は、2つの項目について御説明いたします。
2ページにお進みください。初めに、機運醸成の取組等についてでございます。
3ページにお進みください。(1) Bloom RING Actionの展開といたしまして、Bloom RINGの区役所を通じた地域関係者への配布や、市内の大規模イベント等における配布、SNS等での発信により、市内全域で応援の輪を広げる取組を実施してまいります。
4ページにお進みください。公式ライセンス商品の展開でございます。オフィシャルストアとして3店舗目となる丸善横浜みなとみらい店が8月7日にオープンいたしました。また、8月20日にEXPO 2027 オフィシャルオンラインストアがオープンし、公式ライセンス商品が日本全国で購入可能となりました。
5ページ目にお進みください。特別仕様ナンバープレートの展開でございます。7月14日に市庁舎において、GREEN×EXPO 2027 特別仕様ナンバープレート交付記念セレモニーを開催いたしました。区役所等に配備されている次世代自動車等をはじめとする公用車につきまして、順次取付けを実施しております。また、横浜市で初となる御当地ナンバープレートといたしまして、GREEN×EXPO 仕様の原動機付自転車のナンバープレートの導入も検討しているところでございます。
6ページにお進みください。大規模イベント等におけるPRでございます。7月に、みなとみらい地区におきまして熱気球搭乗会が実施され、来場者の皆様に対して新たな手法でGREEN×EXPO のPRを実施いたしました。また、8月には、TICAD 9において、トゥンクトゥンクが登場いたしました。
7ページにお進みください。大阪・関西万博と連携したGREEN×EXPO 2027 のPRでございます。大阪・関西万博の会場におきまして、次の万博は、横浜でキャッチフレーズに、GREEN×EXPO のポスターや動画、トゥンクトゥンクを活用したプロモーションを行っているほか、ギャラリーEASTにおきましては、農林水産省、国土交通省と協会が連携しまして、GREEN×EXPO の紹介や日本を代表する花卉文化である生け花、

盆栽等の作品展示を行います。

8ページ目にお進みください。開催 500 日前における取組でございます。開催 500 日前となる 11 月 4 日の前後に、記者発表会や市内、首都圏への集中的なプロモーションを展開いたします。さらに、11 月中旬に大学生をメインターゲットといたしまして、シンポジウムを実施いたします。下には、3 月の開催 2 年前のプロモーションの様子を参考までに掲載しております。

9ページにお進みください。次に、会場計画の検討状況等についてでございます。

10 ページにお進みください。出展状況でございます。会場空間を共創するパートナーは、V i l l a g e 出展、花・緑出展、テーマ営業出店、合わせまして 377 件となりました。多くの出展者の皆様と一緒に魅力あふれる会場空間を準備してまいります。

11 ページにお進みください。本市の関わりについてでございます。本市におきましては、ボランティアや市民参加プログラム、教育プログラム、開催地出展、催事など、それぞれ具体的な検討を進めているところでございます。

12 ページにお進みください。開催地出展についてでございます。候補位置といたしまして、①の建物空間を活用した発信拠点と、②のフィールドを活用した活動拠点の 2 つの拠点を想定しております。本日は、会場の西側を想定している①の発信拠点について御説明させていただきます。

②のフィールドを活用した活動拠点につきましては、公園愛護会をはじめとした環境活動団体の皆様が活躍するような場でございますので、みどり環境局が今主体となって検討を進めているところでございますので、恐れ入りますが、みどり環境局から別途、説明させていただきます。

13 ページ目にお進みください。発信拠点の考え方でございます。未来に向けて、挑戦する市民・企業の皆さんと共に拠点から世界に向けて発信します。

まず、市民と共に発信としまして、これから的生活スタイルをテーマに、横浜の高い市民力を発信し、来場者の行動変容につなげてまいります。

また、企業と共に発信といたしまして、未来を変えるテクノロジーをテーマに、最新、最先端の環境技術を通して、未来への期待と新たな可能性をお示ししてまいります。

さらに、会期前後や会場外でも市民の皆様との関わりをつくり、横浜らしい特別な出展を目指してまいります。

会期前は、共に創るといたしまして、拠点づくりや展示制作に関わっていただくなど、多くの市民や企業の皆様と共に市の出展をつくり上げるとともに、会期中は、まちに開くとして、会場内外の場所や取組とつながり、まちに開いた拠点を目指し、さらに、会期後は共に繋がるといたしまして、市民、企業の皆様が共につながる、レガシーを生む体験や感動を目指してまいります。

14 ページ目にお進みください。発信拠点の全体像でございます。上段中央の区画内レイアウトのイメージ図を御覧ください。これは、上段右側の会場図の抜粋の赤枠部分を拡大したものでございます。敷地内に 2 棟の建物を配置し、①から⑤の発信を行っていきたいと考えております。

①のプロローグにおきましては、横浜ならではの新しい未来の姿をお示しする、②の行動変容の体験におきましては、横浜の市民や企業の皆様が実践する新たな生活スタイルを展開し、そして③の先端技術の体験におきましては、先端技術と市民力の掛け算による未来をそれぞれ体験いただこうと考えております。そして、④の繋がり・交流の体験でございますが、設置する活動スペースにおいて、市民や企業の皆様方の熱

量を発信し、新たなつながりを生み出す、⑤のエピローグでございますが、新しい循環をつくる未来への参加の呼びかけへとつなげていきます。

15ページにお進みください。各国の参加表明状況についてでございます。TICAD 9におきまして、総理大臣・横浜市長共催の歓迎レセプション、あるいはセミナー等でのPRに加え、招請活動、現地視察等を実施いたしました。また、期間中に4か国と公式参加契約の調印が行われたところでございます。9月16日時点では約60の国、国際機関から参加表明を頂いておりまして、契約調印国数は7か国となってございます。

説明は以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

- **大桑正貴委員長** 説明ありがとうございました。報告が終わりましたので、質疑に入ります。
- **鴨志田啓介委員** 御説明ありがとうございます。GREEN×EXPO 2027 の開催まで残すところ1年半となりました。これまでの準備も加速して、本格的な実施段階に移りつつあると感じています。大阪・関西万博も来月には閉会し、いよいよ次は横浜という機運を高めていかなければならないと思います。

私も来週も行くのですけれども、通算7日行くことになりまして、何度行ってもやはり楽しめるし、進化が感じられる万博だったと思いました。例えば暑さ対策だったら、FCバス、あとEVだとかを置いて、そこで空調を効かせて暑さをしのぐだとか、いろいろな工夫が見られて、試行錯誤が感じられました。大阪・関西万博は成功を収めることになるんだろうなと思います。

横浜におけるGREEN×EXPO 2027 の成功は、市としての信頼と評価に直結する大きな機会であると同時に、開催都市としての覚悟や決意を市民や世界に示す重要な場でもあります。このタイミングで、改めて開催に向けた局としての方針や決意を、9月8日に着任されたばかりの新局長に意気込みを伺いたいと思います。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** ありがとうございます。まず、全体といましましては、我々は脱炭素、それからGREEN×EXPO、そして上瀬谷の開発、横浜市西部の活性化拠点の形成を目指すと。これを一体となって進めていくというのが責務だと感じております。

その中で、GREEN×EXPO 2027 につきましては、今日で547日前、今、委員がおっしゃったとおり、1年半しかありませんという状況でございます。こういった中で、脱炭素と上瀬谷の開発、横浜市西部の活性化拠点の形成というものを進めていく上でも、GREEN×EXPO 2027 の成功というのは非常に重要な鍵を握っていると考えております。それは、市民や企業の皆様方と一緒に乗り上げ、そしてそれをレガシーとしてその後の上瀬谷の開発だけではなく、横浜市全域にレガシーを継承し、横浜市の経済の発展ですか市民や企業の皆様方と一緒に安全安心な暮らしをつくっていく、そういうところにつなげていく非常に重要な1つの機会だと捉えております。

したがいまして、あと547日になりますと、様々な準備を協会と共に連携しながら進めていくのですが、今、委員がおっしゃったように、我々はホストシティとして、この機会は特別に共催している3分の1の責務と、それからホストシティとしてこのEXPOを活用して、その後の横浜市民や企業の皆様への還元、横浜市の発展にしっかりとつなげていかなければいけないという、横浜市としての責任を背負っているというふうに私は思っていますので、全力で局一丸となって進めるとともに、これは局だけではなく、横浜市全局、区が連携して行う。さらには市民や企業の皆様と一緒に機運を盛り上げながら、また参加型で一緒に乗り上げ、そしてその後につなげていくと。こういうことをしっかりと進めていきたいと思います。

開幕までの準備だけではなく、もう少ししますと今度運営の部分、暑熱対策とか、あるいは輸送の部分でいろいろなことが起きていくということを想定しながら、いろいろな準備をしていかなければいけないとい

うふうに考えておりますので、これから一生懸命責務に取り組み、GREEN×EXPO の成功に向けて取り組んでいきたいと考えております。

- 鴨志田啓介委員　　ありがとうございます。横浜の発展にとって最重要である GREEN×EXPO というところが伺えたと思います。この博覧会を単なるイベントにするだけでなく、開催地の地域に長期的な影響をもたらすまちづくりの起点となってほしいと思います。上瀬谷の発展が横浜の大きな発展につながることを期待しています。

その意味で、この資料にもありましたけれども、市民や子供たちが直接関わる教育プログラムや参加型の取組は、未来を担う世代に体験を通じて価値を残して、地域の財産として受け継がれていくものだと思います。市としてどのような意図や狙いを持って、今回、市民参加や教育プログラムを打ち出したのかを確認したいと思います。

- 村上担当理事　　今、委員がおっしゃっていただいた横浜の特徴として、やはり市民の皆様の力ってとても大事かなというふうに思っておりまして、そういう意味で市民参加、あと教育プログラムは横浜市内の小学生、中学生、未来を担う子供たちに対する取組というふうに考えております。

特に GREEN×EXPO は、市民の皆様と共にくる博覧会、GREEN×EXPO というふうに我々考えております。横浜にはかねてから公園愛護会の皆様とか環境事業推進委員をはじめとした地域の環境を守っていらっしゃる方がたくさん活動もされてきてございます。こうした市民の皆様のお力を發揮していただくような機会、また取組の成果を発表できるような機会を設けることで、横浜ならではの市民力というのですかね、多くの方々と共に上り上げるというようなメッセージを強く世界に対しても打ち出していきたいと思っております。

さらには、横浜の将来を担う子供たちにとっても、地球規模の課題を自分事として捉えていただいて、将来の横浜を背負っていただくような、さらにはそういう方たちが世界にも羽ばたいていただくような、そういう意識を高めていただくということも狙いとして考えてございます。

ホストシティとしまして、この機会を捉えて、環境と共にくる未来のグリーン社会に向けて、市民の皆様と共にくるということを大きなスローガンと掲げて取り組んでいく、そういう狙いで今回横浜市の関わりを整備させていただきました。

- 鴨志田啓介委員　　ありがとうございます。今回の資料においては、初めて横浜市が独自に出展するということが示されたと思います。博覧会における市の出展は、国内外に対して横浜らしさを発信する最大の舞台であり、単なる展示を超えて、来場者の記憶に残る体験を提供する責務があると思います。

我々横浜市会議員も横浜らしさというのはなかなか難しいテーマでありまして、いつもそれを考えながら活動させていただいております。横浜市は良いところがたくさんあるゆえに、横浜らしさとは何なのかというところをいつも考えているところでございますけれども、それを世界に対してこの機会に発信することは非常に意義がある。そして、地元横浜市民が誇りを持てるという視点があると思いますので、そこで具体的にどのような方向性で横浜らしい特別な出展を構想されているのか伺います。

- 村上担当理事　　先ほど私もお答え申し上げました、やはり横浜の一番の特徴は、370 万を超える市民の皆様、これは基礎自治体としては当然日本一ということもございますし、そこに広がってくる市民の皆様の活動というものはこれまで盛んに行われてきたという強みがあるというふうに感じてございます。

そこで、GREEN×EXPO を市民の皆様、あとは横浜市内の企業の皆様と多くの関わりを持ちながら、共につ

くっていくというようなことが重要なふうに思っておりますし、GREEN×EXPO での特別な体験というものを皆様に持ち帰っていただく、そこに多くの市民の方に関わっていただくということを狙いとして考えてございます。

そのために、今回初めて横浜市として開催地出展ということで行っていくという打ち出しをさせていただきました。具体的には、例えば建物を造る過程から、小学生はじめ市民の皆様に関わっていただく方法がないかとか、あとは運営そのものも市民の皆様に担っていただくとか、具体的にどういう運営をするかということはこれからさらに練っていきたいと思っておりますが、多くの方々、市民の皆様と一緒に建物を造る、さらには運営していくというような仕掛けなども考えていきたいと思っております。

さらには、会場だけではなくて、会場の外、例えば横浜の都心部にも横浜ならではの魅力的な施設もございますし、横浜が培ってきたいろいろなノウハウ、経験もございます。横浜市内各所につながるような取組を行いながら、会場内外をつなぎながら、多くの市民の皆様、企業の皆様と共に御参加いただけるよう、そういった機会を設けられる。それをさらに開催地出展という場所で発信できるようなことも考えてございますので、さらに今後このような＝姿勢＝でもって練り上げていきたいというふうに思っております。

- 鴨志田啓介委員 確かに377万人口なので、人口の層の厚さ、市民の皆様にGREEN×EXPOに協力していただくというところが非常に良い視点かなと思いました。

次に、行動変容の体験について聞きたいのですけれども、横浜市はYOKOHAMA GO GREENを掲げ、持続可能なライフスタイルの普及や環境先進都市としての取組を推進してきたと思います。しかしながら、多くの市民や来場者に行動変容を実際に促すことは簡単ではなく、展示やイベントとしてどのように心を動かしていくのかが大きな課題だと思います。

今回の発信拠点の全体像では、来場者が段階的に体験を重ねることで、行動変容につなげるプロセスが描かれていますが、その中でも体験をどう具体化するかが成功を左右するのではないかと思いますが、この辺りを具体的に教えてください。

- 村上担当理事 委員がおっしゃっていただいたように、来館者の皆様が日々の生活の中でどういうふうに体験を持ち帰っていただくのか、行動変容というのが非常に我々も今苦慮しているところでございます。具体的には、市民の皆様、あとは来場者の皆様が自分事として持って帰っていただくための仕掛け、装置はどういうふうにつくっていくのかというところがとても大事かなというふうに思っております。

例えば、食品ロスをどう減らすかとか、食べ残し、あとは出たごみを新しいものに変えていくとか、そういう技術を皆様自ら体験していただいて、それを新たなライフスタイルとして体験する中で楽しんでいただけるよう、そういう仕掛けをこれから考えていくふうに思っておりますが、具体的な内容は今言ったような視点を織り交ぜながら、さらに練り上げていきたいというふうに思っております。

- 鴨志田啓介委員 楽しみにしております。

続いて、先端技術の体験ゾーンについてお聞きします。博覧会の見どころの1つということで、先進な先端技術、これを大阪・関西万博でも様々触れることができたのですけれども、この横浜が未来志向の都市であることを示す大きなチャンスだと思っております。

市民にとっては、ふだん触れることのできない先端技術に出会える機会であり、また企業にとっても自社の技術を世界へアピールする絶好の場となると思います。どのような展示内容をイメージしているのか、さらに先端技術を持つ企業をどのように誘致し、横浜のブランディングと結びつけていくのか伺います。

○ 村上担当理事 やはり横浜には先端技術を有する、特に研究所がたくさんございますし、みなとみらいをはじめとしたいわゆる世界に冠たる企業が横浜にも集積してございます。そういう企業の皆様と環境活動をされています市民の皆様、これをどういうふうにうまく、今まででは企業は企業、市民の活動は市民の皆様の活動というふうに、なかなか融合という機会がなかったと思うのですが、皆様同士がどういうふうに融合していくかということを考えていきたいと思っております。

そこら辺が先端技術体験ゾーンの中で、例えばワークショップなどを開催するとか、交流の場をたくさん持ちらながら、未来の風景を皆様で思いを同じにしていただきながら関わっていただくような、そういう仕掛けを考えていきたいというふうに思っております。

特に先端技術をお持ちの企業の皆様との対話は、我々も既に始めております。先ほど、どういうふうに集めていかれるのかという御質問がございましたけれども、既に我々もいわゆる GREEN×EXPO に関心を持っていただいているような企業の皆様との対話は進めているところでございます。

さらに、横浜市内、これからスタートアップ企業の皆様などもこれから交えながら、より多くの企業の皆様に参加いただくような仕掛けをこれから急加速して打っていきたいというふうに思っております。

○ 鴨志田啓介委員 ありがとうございます。そして、横浜館という名前がつくのか分かりませんけれども、出展内容を充実させるには、それに見合うだけの費用というのがこれから話題になると思いますけれども、市民に誇れる出展とするために投資も必要なのですけれども、一方で財政への影響というのもどう見積もっていくのか。運営費用もそうなのですけれども、市民の理解を得ていくということも大事だと思います。

あらかじめ費用の規模感を表して、透明性を確保することが求められますが、市出展にかかる費用の規模感を教えてください。

○ 村上担当理事 今回、まず市が出展するということを表明させていただきました。それと概念というものをお示しさせていただいたところでございます。さらには建物と、あとはフィールドという2つの場所を用意するということまで打ち出させていただきました。

委員おっしゃるように、規模感の中で費用がどれぐらいかかるのかということはお示ししなければと思っております。ただ、具体的な中身をこれからようやくスタートという、時間がない中でかなり急いでやらなければいけない状況ではございますが、出展に関わる費用、運営面も含めまして、今精査しているところでございます。決まり次第御報告したいと思っております。

ただし、全て市費というわけではなくて、先ほども話題になりました GREEN×EXPO に関わってくださるいわゆる企業の皆様というのもたくさんいらっしゃいますので、そういう企業の皆様と共につくるという意味で、出展にかかる費用も企業の方々からうまく寄附とか協力という形で活用させていただければというふうに思っております。その全体像につきましては、ある程度形が見えましたらきちんとお示ししたいというふうに思っております。

○ 鴨志田啓介委員 ありがとうございます。市民にとっても誇りとなるような出展になるよう、引き続き丁寧な議論を求めたいと思います。

あと3問聞きたいと思っております。GREEN×EXPO 2027 の名称について質問させていただきます。10月には 2025 年日本国際博覧会、すなわち大阪・関西万博が閉会を迎えますけれども、大阪・関西万博という正式略称は、開催地がどこなのか一目で分かる名称になっています。

一方で、2027 年日本国際園芸博覧会の正式略称は GREEN×EXPO 2027 であり、ロゴマークには YOKOH

AMA JAPANと明記されていますが、正式略称そのものに横浜という地名は含まれておりません。国内外の皆さんにとっても、2027年の国際園芸博覧会はどこで開催されるのかが直感的に伝わることが重要だと考えます。単純に言えば、横浜GREEN×EXPOなのかなといろいろ考えるわけでございますが、2027の表記については、大阪・関西万博が2025年に開催され、時期が近いことから区別を明確にするために付されているものと想像しますけれども、しかし大阪・関西万博は今年10月で閉会となります。そうであれば、今後は2027という年号表記以上に、開催地横浜であることを略称や広報の中でより強調していくことが必要だと思います。

様々な事情があり、略称を変更することが難しいのであれば、その分をどのようにほかの広報で補っていくのか、考えがあれば教えてください。

- **五十嵐担当理事** 委員の御指摘のように、開催都市といたしましては、まさに開催都市が横浜であるということを表現することは大変重要なことだというように考えております。ただ一方で、この博覧会はまさに国際博、特に大阪・関西万博はBIEという国際博覧会事務局、これは政府主催のものでございますけれども、その事務局に認定された。我がほうのGREEN×EXPOにつきましては、AIIPHという国際園芸家協会という国際組織に認証された、ダブル認証いただいているという非常に国際性の豊かな博覧会でございます。そういう意味で、博覧会協会におきまして、一般的な正式な略称としてGREEN×EXPO 2027という名前が採用されたというふうに考えております。

一方で、我々開催都市としては、委員の御指摘のように、ロゴにはYOKOHAMAと入っておりますので、そういうところを強調しながら、ジャパン、横浜、あるいは横浜、上瀬谷といったことをこれからPRの中においてしっかりと発信していくことが重要だと考えておりまして、具体的なアクションとしてインターネットですか、それから印刷物、そういうものの使いながら、しっかりと周知をさせていきたいというふうに考えております。

- **鴨志田啓介委員** ありがとうございます。大阪・関西万博の会場から帰るときも、次の開催は横浜という文字がかなり大きく出ていたので、そこはかなり気にされているのかなというところがうかがえました。横浜をかなりいろいろなところで本当に強調していただいて、誰に聞いても次は横浜なんだよねというところで機運醸成を図っていただけたらと思います。

続きまして、副市長にお伺いしたいのですけれども、今回、大阪・関西万博の目玉施設である大屋根リングについては、再利用の検討が進められていると伺っています。しかし、報道によれば、現在の場所に一部を残したとしても全体の約8割は解体され、木材チップ化される見通しであるとのことです。6月時点での再利用の需要は8%にとどまっているとも報じられています。せっかく日本で開催される万博同士のつながりやレガシーの継承を考えると、大屋根リングの一部をGREEN×EXPO 2027で活用するという発想も十分に意義があると考えます。

横浜市が強調している循環型社会、サーキュラーエコノミーの観点からも親和性が高く、また大屋根リングの下は本当に涼しかったのですけれども、暑さ対策の面からも効果が期待できると思います。この提案について、副市長としてどのようなお考えか伺わせてください。

- **平原副市長** 今回GREEN×EXPOでございますので、まさにおっしゃるとおり、循環型の社会ということもPRしていく意味は大きくあるなと思っています。ただ、大阪・関西万博の大屋根リング、これはまだあまり詳しく言えないのですけれども、民間企業出展の中でそれを一部活用するという計画も今出てきておりま

す。

市として、あのリングを大々的にこっちへ持ってきてということは今のところ考えておりませんが、そういった民間さんの動きとかも連携しながらやっていきたいと思います。

それから、今回のGREEN×EXPOで使う建物をはじめとした材料、それはその次にどう再利用できるのか、そういう観点も重要だと思っていますので、そういう展開にできるようにそちらも考えていきたいと思います。

それから、将来の公園施設となるパークセンターというのを私どもの公園事業として発注しておりますが、これは博覧会で展示施設として使ってもらって、その後公園の施設として引き継いでいくと。ですから、GREEN×EXPOを感じられる施設として、そのまま将来も使っていくと。そんな取組も進めておりますので、今のサーキュラーエコノミーみたいな考え方も具体的に体現できるようにきちっと検討していきたいというふうに思います。

- 鴨志田啓介委員 副市長、ありがとうございました。ネイチャー・ベースド・ソリューションだとかカーボンニュートラルだとかサーキュラーエコノミーだとか、テーマが盛りだくさんで、行動の変容だとかそういうテーマの万博だと思いますので、まさに今おっしゃられていたような取組がGREEN×EXPOの中で進められていくようだということが今分かって本当にうれしく思っております。ありがとうございます。

最後に、私、横浜市緑区の十日市場、シャトルバスも出ますので、輸送実施計画でちょっと気になることがございますので、現時点でお答えいただける範囲で結構なですけれども。シャトルバスの調達だとか必要とされる台数、仕様や車種、さらに想定しているメーカー、併せて運転手の確保について、進捗状況を御説明いただければと思います。

- 西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長 シャトルバスの確保と運転手につきましては、現在のシャトルバスにつきましては、神奈川県バス協会ですかバス事業者等、いろいろなどころに当たっているところでございまして、まだ具体的に確保できている状況ではございませんが、今何とか確保できる方向で努力しているところでございます。

バスの車種につきましては、極力環境配慮型ということでバス導入を多く取れるように今努力しているところでございます。

あと運転手の確保につきましては、協会のほうが今エージェントといいまして、エージェント契約が8月になされましたので、これからエージェントがバス会社ですかバス協に向かいまして、運転手の確保に努めていくという形で今進捗させているところでございます。

- 鴨志田啓介委員 お答えできる範囲でありがとうございました。引き続きよろしくお願い申し上げます。
- 花上喜代志委員 平原副市長、ここに特別仕様ナンバープレートの写真が出ていますけれども、このナンバープレート、写真では小さ過ぎて分からぬのだけれども、実物はここに持ってきているのですか。
- 平原副市長 実物はここには持ってきていません。
- 花上喜代志委員 今どのぐらい引き合いとか問合せとかそういうのは来ているのですか。
- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 今、公式ナンバープレートですかけれども、8月末時点で6674件と聞いております。
- 花上喜代志委員 ナンバープレートといつても、機運の盛り上げには貢献するんだろうというふうにも思うんで、引き続き多くの方々にナンバープレートを利用していただくようにPRしていただければと思いま

す。

さて、大阪・関西万博がいよいよ閉幕に近づいて、さあ、次は横浜万博と、こういう今PRが行われておりますけれども、振り返ってみると、大阪・関西万博も当初はネガティブな話が非常に多くて、こんなんで成功するのかという危惧の念が多く語られたと思うのですね。でも、実際今になってみれば、あと残り1か月で相当な盛り上がりを見せていると。私も2回行つきましたけれども、物すごい人の数で、パビリオンに2時間並んで、あの暑さの中、見て見学してきましたけれども、多くの方々が特に暑さ対策をしっかり講じていかなきやいけないと。

鴨志田さんが大屋根リングの話をしましたけれども、大屋根リングをそのまま横浜に持ってくるというようなことはちょっと無理なのかなとは思いますけれども、当然のことながら、暑い時期に行われるということでもあるので、この辺については大屋根リングに代わる、何か考えていいかなきやいけないんだと思うんだけども、もうそろそろその検討が行われているんじゃないかと思いますけれども、分かっている範囲で教えてもらえばと思います。

- **村上担当理事** 委員のおっしゃられた暑さ対策、今年の夏も結構暑い日が、9月に入つてもまだ暑い日が続くという状況になっておりますので、GREEN×EXPOも暑さ対策というのはとても大事かなと思っております。

特に建物とかを建てる中には、空調とかは当たり前の話として、屋外をどうするか、屋外にいらっしゃる方ということもあるかと思います。かねてからドライミストの導入とか打ち水とかそういうものは検討してきたのですが、さらに加えて、いわゆる大阪・関西万博でも結構評価の高かった給水スポット、これは実際に対策というより暑くなった方々への対処方法だということで、これから導入を考えていくというふうに協会とも話をしているところです。

さらには、ここは将来、上瀬谷公園として整備されるところですので、いわゆる樹木、大きな木をなるべく植樹するとか、あとは幹の太い樹木を植栽して、いわゆる緑陰と言われますけれども、緑の陰を増やすような取組ができればというふうに思っておりますし、そういう工夫を屋外ではできないかというふうに考えているところでございます。

さらには、建物のひさしだとかパーゴラ、あとは日よけによる日陰の演出、様々な取組をしていくのと同時に、特に夏場暑いときの開催方法については、どういうふうにしたら涼んでいただけるのか、それは運営も含めて夜間開催などのことも含めながら、総合的に考えていく必要があるかなというふうに今協会と連携して取り組んでいるところでございます。

- **花上喜代志委員** 給水スポットとかパビリオンが大阪・関西万博はあるんで、そういったところに入ればしのげるなというように思いますが、横浜の園芸博については、パビリオン、これがほとんどないというような今の計画だと思いますけれども、具体的には政府館とか横浜館とか今考えられているパビリオンは幾つあるのですか。
- **五十嵐担当理事** 委員の御指摘のように、建物内での暑熱といいますか、クールスポットは大変重要なと思います。資料の中の10ページを御覧いただきたいと思うのですけれども、ここに出展状況ということで、民間の方々も出展いただくということになっております。大阪・関西の民間は13館というように承知しております、今回のGREEN×EXPOにつきましても、民間出展についてはテーマ営業出展といういわゆる営業型のものも踏まえると、数としてはそれを上回っているのではないかというふうに考えておりますけれども。

そこにあります各建物について、ビレッジ出展は恐らく今それぞれの民間で御検討いただいているので、どういう形になるかということをつまびらかに把握しているわけではございませんけれども、恐らく箱のようなものを持ってきていただけるのではないかと思っております。

それから、委員に御指摘いただきましたように、テーマ館、それから屋内出展館、これは屋内で花とか緑の展示を行うものでございますけれども、これがございます。それから、園芸文化館、そして何よりも日本国政府が出展される政府出展館、それからそのほかにつきましてもUR都市機構様などにおいて、いわゆる我々のパビリオンというものは、園芸博覧会は自然との調和ということで言っておりますので、ああいう大きなものがというよりは、ガーデンと一緒にになったということで、むしろハウスというような表現を使わせていただいておりますけれども、かなりの数のものは出てくると思っております。

一方で、博覧会の会場面積そのものは、大阪と比べると6割程度になっておりますので、それに応じた規模感のものが出てくるのではないかというふうに想定しております。

以上でございます。

- **花上喜代志委員** 先ほど話があった、樹木を相当植えて、それで日陰をつくるというようなことは、特に園芸博には非常に大事だなというふうに思うのですけれども、残り1年6か月、そんなに大規模な森をつくるというようなことは考えにくいと思うのだけれども、どの程度の緑を確保しようとしているのか。その規模感が分かれば教えてもらいたいと思います。

- **長谷川上瀬谷公園企画部長** 既に公園の工事のほうで現地にあった樹木も含めて1600本ほど。それも通常の公園ではいわゆる植木畠で生産した小さいものが多いのですけれども、現地にもともとあったかなり幹の太い、枝の広がった葉のついたもの、こうしたものを移植して、もともと全体が草原のような形になったところに大木を点在させて、木陰をつくるというようなことを進めております。

これに加えて、博覧会の出展企業さん、博覧会協会自身も仮設等も含めて樹木をところどころ出展に応じてやられるというふうに聞いておりますので、現在の公園事業プラスアルファで緑が植えられるという状況になろうかというふうに把握しております。

以上でございます。

- **花上喜代志委員** 今の話のように、数多くの樹木を植えているというのは、それは承知しているのですけれども、特に園芸博がオープンする、開幕する時期には、圧倒的な花と緑でお迎えするというような、こういううたい文句があったと思うのですけれども、3月19日が開幕日ですよね。その時期になるとそろそろ桜の話題が大変盛り上がりてくる時期だと思いますけれども、圧倒的な花と緑でお迎えするという以上は、特に桜をかなり意識しなきゃいけないんじゃないかなというふうに思いますが、既に桜の木をかなり植えたというふうに聞きますけれども、どのくらいの本数が今現地で植わったのか。また今後どうするのか、その辺りを教えてもらえばと思います。

- **坂井上瀬谷整備事務所公園整備担当部長** 委員の御指摘のように、今、桜の名所づくりというのを上瀬谷地区を挙げて進めておりまして、将来的には40品種600本以上の桜を見ていただけるようになるということで進めておりますが、現在30品種400本までは現地のほうに既に植栽しております。

- **花上喜代志委員** 桜に30種類もあるのですか。どんな桜があるのか、代表的なものだけ教えてくれますか。

- **坂井上瀬谷整備事務所公園整備担当部長** 桜の品種なのですけれども、これまでの日本の歴史の中でかけ

合わせて、いろいろ接ぎ木などをして、新しい園芸品種がつくられておりまして、当然ソメイヨシノが一番有名なわけですけれども、それ以外にも伝統的なヤマザクラでありますとか、シダレザクラでありますとか、八重の桜でありますとか、あと花が若干遅れて咲くような、5月に咲くような普通のソメイヨシノが終わつた後に楽しめるような桜もございます。あとは、香りがある桜といったような、いろいろ様々な桜が楽しめるように今植栽しております。

- 花上喜代志委員 ありがとうございます。今のお話のように、桜はいろいろな種類があるということで、2月頃になると河津桜が非常に話題になりますけれども、今のお話だと400本既に植えていて、さらに200本増やして、全体的には600本の桜を植えると。こういうお話ですけれども、期間的には桜だけでどのくらいの期間楽しめることになるのですか。

- 坂井上瀬谷整備事務所公園整備担当部長 委員のおっしゃるように、河津桜も入っておりますので、最初は河津桜が2月下旬ぐらいから楽しめるかなというふうに思っておりまして、おおむねそれから2か月間ぐらいいろいろな桜が代わる代わる咲いていくという景色をつくっていきたいというふうに考えております。

- 花上喜代志委員 やっぱり花といえば桜と言われるほど日本人は桜に対する思いが強いと思うんで、桜はしっかりと管理していただくようにお願いしたいなというふうに思います。

話ががらっと変わりますが、マスコットキャラクターのトゥンクトゥンク、これがそろそろ話題になってきたと思いますけれども、トゥンクトゥンクのバッジがあるらしいですけれども、それは今売り出しを始めているのかどうか。それが分かったら教えてください。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 公式マスコットキャラクターのトゥンクトゥンクのピンバッジですけれども、ライセンスショップが今回3店舗になっていますけれども、そちらのほうで販売のほうをしております。

- 花上喜代志委員 分かりましたけれども、大阪・関西万博のミャクミャク、あれも当初はかなりいろいろな意見が出ていましたけれども、トゥンクトゥンクについてはまだそれほど話題になっていないということなんだけれども、やはりこういうキャラクターのトゥンクトゥンクについてはPR効果が大きいと思うんで、積極的に活用していくという必要があるんではないかと思いますけれども。前に予算委員会で言いましたけれども、トゥンクトゥンクが市役所に置いてあっても、ただ置いてあるだけで何の話題にもなっていないというところが非常にどかしいなと思って見ているなんだけれども、やはりしゃべるとか動くとか映像でいろいろ見せていくとか、いろいろな工夫をすればかなり話題が広がっていくのではないかというふうに思うのだけれども、これはかなり大事なことだと思うのだけれども、どういうふうに考えますか。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 ありがとうございます。まさに委員の御指摘のとおりのこととして、これからトゥンクトゥンクのほうもいろいろな形で展開していく形になります。つい先日、協会のほうから記者発表させていただいたのですけれども、ミャクミャクとのコラボ商品なんかも販売させていただいて、大阪のほうでもポップアップショップができるとか、そういう形で連携の形ができてくる。

それから、先ほどの資料のほうでも御説明させていただきましたけれども、TICADのほうで初めて着ぐるみのほうが出てきて、動きも出てくるといった、そういう形でいろいろなイベントのほうに、これから大規模なイベントも出していくとか、そういう形でトゥンクトゥンクを使った形でのプロモーション、よりこれから力を入れていく形になりますので、しっかりとやってまいりたいと思います。ありがとうございます。

- 花上喜代志委員 横浜全体で園芸博を盛り上げていかなきゃならないので、瀬谷とか旭だけの話ではないと思うので、少なくとも横浜18区にトゥンクトゥンクをやっぱり目立つところに置くような、そういう工

夫というのが必要じゃないかというふうに思うのですけれども、その辺りについての活用を全市的に何か考えているのではないかと思うのだけれども、お考えがあれば教えてもらいたいと思います。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 ありがとうございます。これから 500 日前、1 年前ということで、いよいよ開幕のほうに向けて近づいてまいりますので、今、委員の御指摘があったような、全区でやはりトゥンクトゥンクが物すごく目に留まる形になりますので、どういうふうに活用できるかということで、トゥンクトゥンクも一定の使い方にルールがあるというところでございますので、協会ともそこは連携しながら、どういう場所に置いて、どういうふうにプロモーションをやっていくと一番効果的かというのを今まさに検討しているところでございますので、時期が来ましたら速やかにまた発表させていただければと思います。ありがとうございます。

- 花上喜代志委員 やはり横浜全体で園芸博を盛り上げていく必要があるので、18 区が同じような対応をして、全市的に盛り上げていくことが必要だろうと思うのですね。具体的には上瀬谷の広大なフェンスが張り巡らせてありますけれども、そこに子供たちの絵を貼るというようなことが今始まっているようですが、18 区全部の児童生徒にそういうものをお願いして、各区で盛り上げを図っていくというような、そういう工夫がされているのかどうか、その辺りはいかがですか。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 ありがとうございます。これまで 1000 日前ですとかそういうところで、18 区で連携して、一体としてそのときを盛り上げていくという形でありますので、当然 500 日前のところで、その先に向けても区と連携しながら今取組を進めています。

具体的に今この取組というところは申し上げられない、まさに検討しているところでございますけれども、今そういうなお子様たちと一緒に、小学生とか連携した取組ですとか、その辺りも考えながらこれから取り組んでまいりたいと考えています。

- 花上喜代志委員 ぜひ、全市的に盛り上げていくようにお願いしたいというふうに思います。
最後に、前回の大坂花博は、かなりの国のパビリオンができていましたよね。その後、3年ぐらい前にその後の跡地がどうなっているかということを、テレビ朝日じゃなかったかと思いますけれども、特集で 2 回ばかり取り上げていましたけれども、大阪花博の会場の跡地のパビリオンなどが荒廃してしまって、廃墟となっているという言葉を使っていたのですね。

私もどんなわけでそんなになっているのかを大阪に行って視察してきましたけれども、大阪市の担当者と言えば、終わった後の予算、そういうことまで考えていないかったという話をしていました。今回、横浜は大規模なパビリオンなどはそれほど造るということではないようですけれども、終わった後のことも考えて対策を講じていかなきやいけないと思うんだけれども、こういった点についてお考えがあれば教えてもらいたいと思います。

- 五十嵐担当理事 委員の御指摘のように、博覧会の後の姿というものは大変に重要な事象だと存じております。大阪花博の後は、鶴見緑地という都市公園になりました、今回の横浜と同様に都市公園の上に会期中仮設という形で博覧会を載せて、その後また都市公園に戻したということでございます。

我々は、委員の御指摘のように、大阪の状況もよく勉強させていただいておりまして、現時点で博覧会で仮設で載せられるものについては博覧会協会によってしっかりと提供させていただく。残していただくものについては残していただくという整理をきちんと行って、それを確実に実施させていただくということが大事だと思っております。

上瀬谷の公園については、これから計画を具体化させていただきますけれども、そのプロセスの中で支障物についてはしっかりと外していただいて、残るものと整理し、それをさらにきちんと実行していただく。また、敷地の問題もございますので、そういったところも十分に考慮しながら、大阪花の万博の教訓を踏まえて、対応していきたいというふうに考えております。

- **花上喜代志委員** 最後に一言申し上げますが、上瀬谷の園芸博を開催する会場は、旧日本軍の基地があつた。その後、戦後米軍が接收して、米軍基地として七十数年使ってきたということで、戦争のイメージが非常にあって、不発弾が出てきたという事実もあつたりして、やはりそういった歴史を考えると、平和のイベントだということを強く打ち出す必要もあるのではないかと。こう思うのですけれども、大事な考え方ではないかと思いますが、当然園芸博、あるいはその後の上瀬谷のまちづくりにも関わる話ですけれども、平和についての思いをどういうふうに今後進めていこうとしているのか、この点だけ最後に聞きたいと思います。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 今、委員の御指摘のとおり、平和の象徴といいますか、このイベントが平和友好の象徴となるようなイベント、EXPOにしていくというのは非常に大切なことだと考えております。このEXPOにつきましては、海外からの参加、出展等もございますし、国内外広くそういった意味で交流しながらやるという平和もございますし、またこの土地の歴史をどういうふうに後世に伝えて、こういうふうに土地利用に転換してきたよという、この思いをどういうふうに伝えていくかというのは、これからの行催事ですか会場のしつらえの中に何かしら埋め込んでいきたいなど考えております。
例えば今、協会とは、もともとあそこはキャンプになっていましたので、プレートが残っていましたので、こういうのをどう活用しようかとかいろいろな話はてきておりますので、まだ具体的にどこにどういうものをということにはなっておりませんが、いろいろな形でそういった平和の発信というものをしていくたいと考えております。
- **宇佐美さやか委員** ありがとうございます。10ページの出展状況について伺いたいのですけれども、Iの企業さんとJの企業さんは、Craft Villageに配置されるという認識でよろしいですか。
- **五十嵐担当理事** IとJの企業さんがCraft Villageでよろしいかと思います。
- **宇佐美さやか委員** Kの企業さんとLの企業さんは、Craft Villageに入るのか、Kids Villageに入るのかというのはどういうふうに見ればよろしいのでしょうか。
- **五十嵐担当理事** KとLにつきましては、Kids Villageの中に入るというように聞いております。
- **宇佐美さやか委員** ありがとうございます。Craft VillageとKids Villageには出展が4か所しかないという認識になるのですが、これでいいというお考えなのでしょうか。
- **五十嵐担当理事** ここは、博覧会のテーマ、ビレッジの構成の関係でございまして、例えばUrban GX Villageは、もともと未来のまちとグリーン社会という広いテーマをお持ちでありましたし、それからCraftについては日本の自然を生かした、大切にしたものづくりの観点、それからKids Villageにおきましては子供たちと未来の環境ということでございまして、それぞれ民間の企業さんの方々と対話しながら、出展させていただいたということでございます。

規模感からいければ、Urban GX Villageが非常に幅広いテーマといいますか、対象を持ったものでございますので、結果としてこういうことになったということについては、博覧会の空間構成上については妥当ではないかというふうに考えております。

- 宇佐美さやか委員 これから出展、何か建物を建てるのではなくて、お庭としてみんなで楽しんでいただくものになるという認識でよろしいですか。
- 五十嵐担当理事 今回の博覧会は、明日をつくる幸せの風景ということでございまして、それぞれのいわゆる民間企業の出展におきましても、半分はガーデンといいますか、屋外空間にしていただいて、GREEN×EXPO を象徴するようなものというふうにお願いしております。基本的に広い空間と花畠も含めて、食、農も感じられる空間とそういった建物の屋内展示が一体となったすばらしい博覧会を計画しているというふうに承知しております。
- 宇佐美さやか委員 ありがとうございます。では、先ほどありましたけれども、横浜市が SATOYAMA Villa でフィールドを活用した活動拠点となっているのですけれども、こちらの面積はどれくらいになるのかお伺いします。
- 谷口 GREEN×EXPO 推進部担当部長 先ほど局長のほうからもありましたが、フィールドを活用した活動拠点につきましては、現在、みどり環境局が主体的に検討を進めているところでございます。区画につきましては、約ですが、1ヘクタール、1万平米と聞いております。
- 宇佐美さやか委員 ありがとうございます。 SATOYAMA Villa では、横浜市が出展する以外にどういうものが催されるのかというのは、まだ何も示されていないのですけれども、こちらはどうなるのでしょうか。
- 村上担当理事 横浜市が今回出展というのは、今図面に出ています建物とフィールドの2つがあって、フィールドのほうにつきましては、公園愛護会とか市民のボランティアの方の活動の場ということで、これからみどり環境局を中心にさらに活動の場をどういうふうにつくっていくかということが練られていくというふうに考えてございます。
- 大桑正貴委員長 宇佐美委員、そちらはみどり環境の審査のときに詳しくあると思いますので。
- 宇佐美さやか委員 すみません、ありがとうございます。開催地出展では、最初に立てられた基本計画で4万4000平米という記載になっているのですけれども、先ほどお伺いした SATOYAMA Villa は1万平米。 Urban GX Villa を足すとこの面積になるという考え方でよろしいですか。
- 谷口 GREEN×EXPO 推進部担当部長 基本計画の際には、開催地庭園という表示になってございましたが、その後の検討の中で横浜市の開催地出展につきましては、今お示ししている2つの拠点で開催していくと。それぞれの面積につきましては、先ほどお答えしましたが、フィールドを活用した活動拠点については1万平米、今回御説明いたしました建物利用を活用した発信拠点につきましては、約3000平米となってございます。
- 宇佐美さやか委員 単純に狭くなったという考え方でよろしいですか。
- 谷口 GREEN×EXPO 推進部担当部長 面積的には確かに数字的には少なくなったという見方もできるかと思いますが、実際の発信の方法、手法であったり、発信する内容、こういったことを検討していく中での妥当な面積と考えてございます。
- 宇佐美さやか委員 それほど広い面積を使わなくともちゃんとしっかりとアピールできるようなものが検討できたから、この広さになったという、確認させて……。
- 谷口 GREEN×EXPO 推進部担当部長 はい、そのとおりでございます。
- 宇佐美さやか委員 ありがとうございます。14ページのレイアウトのイメージでは2棟建てるというふ

うになっているのですけれども、これはなぜ2つに分けるのかというのをお伺いします。

- 谷口 GREEN×EXPO 推進部担当部長 レイアウトにつきましては、まだ検討中でございます。ただ、今2棟という形で表せていただいているのが、ページでいうと1つ前になりますが、13ページにございますとおり、発信拠点の考え方が、市民と共に発信を、これを中心にしたこれから的生活スタイルと、企業と共に発信する未来を変えるテクノロジー、この2つのテーマを大きく定めてございます。そういったテーマから考えて、建物を2つに分けて配置をしているというのが現在の考え方でございます。
- 宇佐美さやか委員 訴えるべきものがちょっとずつ変わるから、建物が2つできるということなのすけれども。市長が神奈川新聞のインタビューで、数字に表れるような形で環境を意識し、行動を変えていく人の割合を増やすのが園芸博のレガシーということをお話しされているのですけれども、今年も過去最高気温記録というのを毎日塗り替えられるぐらいの酷暑が続いている、これが地球温暖化と。この状況を皆さんに認識して、共有していくということで、気候危機だということに気づいてもらう、啓発の機会となるような内容にしていくというのがメインだと思うのですけれども、そのために地球温暖化ですか气候危機の研究ですかをされている方とか、気候危機を頑張って変えようといつて活動されている皆さんの知恵とかを借りるなどしてつくっていただきたいなというふうに思うのですが、その点はいかがでしょうか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 今、委員の御指摘のとおり、大切な視点だと考えております。これは、市民や企業の皆様と一緒に上り上げてまいりますが、気候危機への対応という意味でいいますと、様々な専門家、先生とかいろいろな方がいらっしゃると思いますので、様々な御意見を伺いながら、最終的には市の出展でございますので、我々としてしっかりと決めていきたいと考えております。
- 宇佐美さやか委員 皆さんで変えていかれるような機会にしていただきたいなというふうに思っています。本当に深刻な状況というのを皆さんに考えてもらえるような機会になるというのを期待しています。
次に、各国の参加表明の状況なのですけれども、これまで何か国に招請をかけたのかというのをお伺いします。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 まず、各国への参加招請につきましては、政府が行っていることでございますので、横浜市として全てを把握していることではございません。そういう中で、参加招請が可能な国に対しては、いわゆる日本国に所在しております各国の大連館に政府の委員が回りまして、招請活動を行っているとは伺っております。数としては幾つと今はっきり私も把握しておりませんが、189か国プラス1地域、それから国際機関、こちらに回って招請活動をされたというふうに伺っております。
- 宇佐美さやか委員 お返事というのはまだ頂けていないということなのですかね。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 そういうたった招請活動の中から既に7か国といわゆる出展の契約がされております。こちらは公表されておりまして、まず最初にカタール国と調印をし、それからネパール、それからスーダン、そして先日のアフリカ開発会議を契機として4か国と参加契約の調印をしたということで、ケニア共和国、コートジボワール共和国、マラウイ共和国、モザンビーク共和国、今合計7か国が参加の調印まで進んでいるという状況でございます。
- 宇佐美さやか委員 先ほど花上委員がおっしゃっていましたけれども、前回の大阪で開かれた花博では83か国で55国際機関が参加したというふうに聞いているのですけれども、今の報告ですと、契約、調印されたのは7か国にとどまっていると。これからどうやって増やしていくのかというのをお伺いします。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 引き続き、政府のほうでいわゆる契約までたどり着くように対話を

継続的に行っていると伺っております。参加のいわゆる意向といいますか、参加したいなとかそういうような意向というのは、かなり多くの国がお持ちだと伺っておりますので、そういった国々がしっかりと契約をして、本当に参加をするというところまで次に持っていくというような活動を、継続して政府のほうで行っていくということだと考えております。

- 宇佐美さやか委員 政府のほうでやっているのは、なかなか横浜市にすぐ返事が来るというものではないということなのですかね。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 はい。これは政府の外交的な活動になりますので、我々も逐次全てを把握するということは難しいですが、我々としてもそういった状況をできる限り情報収集をして、横浜市として何か後押しができることはないか、そういったところも常に考えているところではございます。
- 宇佐美さやか委員 いろいろそれぞれのお国の事情もおありになるとは思うのですけれども、出展するに当たっては早く決まらないとじれったいものがあると思うのですけれども、これからもともとつくられた基本計画では今年度中に参加国を決定するというふうになっていたと思うのですけれども、そこは守られる予定でしょうか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 あくまでそういう目標は変わっておりませんので、今政府のほうで鋭意、先ほど申し上げました調印までつながるよう動いているところでございます。
- 宇佐美さやか委員 それぞれのお国の事情等々もあるとは思いますけれども、やっぱり国際という冠をつけてやられることですので、ぜひ本当に多くの国々に参加していただけるように努力していただければというふうに思います。
- こがゆ康弘委員 GREEN×EXPO も徐々に具体的な姿が見えてきたかなと思いますけれども、まず出展状況のページ、青い部分については、ビレッジ出展ということで決まっているということなのですが、建物が建つということを先ほど来伺っております。大阪花博を見ると、各国がかなりきらびやかで個性的な建物を建てているのですが、やっぱり今回のコンセプトなどを踏まえると、例えば共通の仕様にするとか、色とか、あるいは木造にするとか、建物についてもコンセプトに合ったものにするということなのかなと思うのですが、その辺りは何か決まっていますか。
- 五十嵐担当理事 委員の御指摘のように、この博覧会はまさにサーキュラーということを注目して、テーマコンセプトを決めているものでございまして、博覧会協会のほうにおきまして、GXハウスというあらかじめモジュールをプレハブのメーカーさんたちと共同開発した仕組みがございまして、そのユニットをベースに出展を考えている企業さんたちがいらっしゃるというふうにお伺いしております。
したがって、この場でつくったものがその後リサイクルといいますか、プレハブのデベロッパーさんにおかれでまたほかのところで転用される、そういうモジュールなのだけれども、外装、あるいは内装において様々な民間企業に工夫をしていただいて、豊かな屋内空間をつくっていただくと。そういうふうに計画をし、それを導入される企業さんもいらっしゃると。
また、当然ですけれども、各社において独自の建物を建てるという工夫をされているという民間もございまして、全体としてはその場合においてもサーキュラー、循環というものを意識していただくように協会からお願いしているというふうに承知しております。
- こがゆ康弘委員 各社は広さというか、大きさはばらばらなのですか。それとも、1区画この広さというふうに決まっているということなのですか。

- **五十嵐担当理事** 面積につきましても、それぞれの民間企業と協会のほうで御相談をされて決定をしたというふうに聞いておりまして、小さいものでいくと 1000 平米、それから大きいものでいくと 3000 平米のようなものもあるということで、それぞれいろいろな大きさがあるというふうにお伺いしております。
- **こがゆ康弘委員** やっぱり特徴のある、こういうものをつくっていただけるということだと思いますが、共通のコンセプトの下で、環境や自然というものが感じられるような、そんなものになればいいなと思います。

あと 2 点目ですけれども、目標来場者数に到達をするということを考えると、多世代の方々にやはり来場していただくというのが多分重要になってくると思います。ただ、園芸とか環境というと、限られた方々、限られた趣味を持っている方というか、そういう方が来られることが多いと思うのですが、御家族連れで来られる方、大阪万博を見ても結構子供たちが多いですから、そういう意味ではそういう方々にとっても楽しめるような万博にしなければいけないなとは思っています。

そういう意味では、K i d s V i l l a g e と先ほど来出ていますけれども、ここにどんなものが来るのというのが子供たちにとっての魅力になると思うのですね。例えば、自然というのがイメージというか、テーマですから、そういう意味ではアスレチックを造るとか、あるいはジップラインで会場を見渡せるとか、そういった子供たちも楽しめるような工夫というのが非常に重要だと思うのですけれども、K i d s V i l l a g e の工夫、今考えられているものを教えてください。

- **五十嵐担当理事** 先ほど来御説明申し上げていますが、それぞれの民間におかれましては、民間企業の中でまさに博覧会で K i d s V i l l a g e においては自然環境、地球環境と子供たちの未来を考えるというテーマで検討していただいているところでございまして、実は検討途中の過程は博覧会協会のほうにもなかなか具体的なものではなくて、むしろ企業としてしっかり検討して、企業として発信するところに協会と一緒に共創ということが始まっていくというものでございまして、それぞれ個別の企業さんの中身について、私どもが承知しているわけではございませんけれども、この空間としては子供たちの遊び場のようなものを協会のほうでもしつらえるというように聞いておりますし、それぞれ民間企業においても体を使ったものと地球環境の関係などが表現されるのであろうというふうに理解しております。

- **こがゆ康弘委員** よくこういう公園とかもそうなのですけれども、キラーコンテンツというのがやっぱり PR のメインになるような、そういうものがやっぱり重要なかなと思いますので、子供たちがぱっと見て行きたくなるような、そんな魅力あふれるようなものにしてもらえればなと思います。

それと最後の各国の参加表明状況なのですが、こちらも絵でいうとそんなに広くないようなイメージの場所が国際出展というふうに書かれているのですが、今 60 か国ということなので、1 国当たりの広さとか、あるいはどんな建物が建つか、大阪万博だとコモンズ館というのがあって、複数の国がぱっと建物の中に入っているような、そんな感じがあったのですが、この 60 か国、どういう形で出展というか、参加していくのか、その辺りを教えてもらえばと思います。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 大きくは 2 つタイプがあると把握しています。1 つは庭園そのものを出す。それから、庭園プラス大きなパビリオンというよりも、ある程度小規模ですけれども、各国の PR ができるようなブースを備えたような建物とセットで出展をすると。大きく 2 つが今考えられております。

したがいまして、そのスペースというのはその 2 つによって違うと思うのですけれども、そういう形で 60 か国以上、70 か国くらいを目標としておりますので、そういった 70 か国が出展していくように、今の

ようなタイプごとに、どういうような出展をしますかということを政府が今調整しているというふうに理解しております。

- こがゆ康弘委員 それぞれの国が建物を建てるということですか。それとも共通の1つの建物になるということですか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 これもタイプが別々でございまして、いわゆる敷地として各国に渡して、各国の事情によって使い方を自由に、今みたいに庭園プラス出展みたいなものをどう組み合わせてやるかというものを決めるパターンと、それから我々日本国側がある程度用意して、そこにいわゆるしつらえをしてくださいというふうにお迎えをするようなパターンがあります。

それはどういうことかといいますと、開発途上国等になりますと、自らの資金で全てを出展というのも難しいところがございますので、その辺りは日本国側である程度用意して、そこに来てくださいというようなものも備えますので、いろいろなパターンがあるというふうに認識しております。

- こがゆ康弘委員 ありがとうございます。より多くの国の方々に参加していただければなと思うのですが、園芸博で国際的な機関からのそれぞれの国からの参加というと、国の紹介というわけではないでしょうから、国ごとにお花とか木とかそういうものが特徴的なものがあつて、それで御紹介をするという、そんな形になるという、そんなイメージでよろしいでしょうか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 はい、イメージはそのとおりだと思います。
- こがゆ康弘委員 大阪万博はすごく人気で、今でも多くの方が参加しています。コモンズ館に行くと、狭いエリアの中で国の紹介なんかをしているので、そういうところに入って皆さんのが御覧になられている。国が違うというのはあるのですが、展示内容というのはなるほどな、大体同じと言ったら失礼ですけれども、そういうところなのですが、一番並んでいるところは最後の印鑑を押すところですね。その国をクリアしましたと。スタンプ場というのがあって、それをクリアするということも一つ参加の目的というか、来客の目的になっているような、そんな感じもするのですよね。

だからそういう工夫もいろいろしながら、目標の人数を達する。先ほど言ったようなキラーコンテンツもそうなのですが、そういう工夫も必要だと思うのですが、その辺り局長の考えを伺いたいです。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 ありがとうございます。委員の御指摘のとおりだと思います。過去には2019年に北京で同じくA1クラスの国際園芸博覧会が行われておりまして、私も観察に行ったのですけれども、今、委員がおっしゃった各国のいわゆる出展ブースのスタンプはやっておりました。そして、そういうところにお客さんが来ているのを目の当たりにしましたので、今、大阪・関西でもやられているということですので、我々GREEN×EXPOにおいても、そういったところをしっかりと検討して、できる限りのことをやっていきたいと考えています。
- 長谷川えつこ委員 御説明ありがとうございました。本当にいよいよ万博が近づいてくるということで、皆様の機運醸成のいろいろ御尽力があつてからこそ、いろいろと認知度が上がってきたのではないかなんて思っております。

その一役を買ったのもBlooming Ring Actionがあつたこともあるのではないかと思っております。アクションすることで、万博から離れた場所にいらっしゃる方々も、万博を身近に感じられる、そういった要素につながつていったのではないかと思うのですけれども。Blooming Ring Actionの展開について、今後はどのようにお考えなのかなというところと、5月16日から開

始されたということで、今のところ、実際どういった場所でどれぐらいのリングのほうの配布をされたのかお聞かせください。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 御質問ありがとうございます。Blooming RING Action、5月 16 日からスタートということで、これまで大規模なイベント等でこの趣旨に賛同していただいて、また参加してくれた方が、ここにもあるように、写真とかSNSとか、そういうところに共感いただいた方を中心に配布してきているということです。

5月 16 日からこれまでというところで、主なところですと、Yokohama Nature Weekとかハマフェスとか開港祭とか、そういうところでやってきてございます。これからですけれども、磯子まつりですとかつるみ臨海フェスティバルとか、そのほか大きい、皆さんが集まっていたらけるようなところで配布してきてございます。

全体の協会のほうで主催してやって、市もホストシティとして一緒にやってきている取組でございますので、全体の数は把握していないのですけれども、市のほうでやっているところの数の配布としては、今1万2000個ほどイベントとかで配布させていただいていると、そういう状況でございます。

- 長谷川えつこ委員 Blooming RING Actionについては、現地でプレスレットを頂くということもすごく効果的なことだとは思うのですけれども、大阪万博がこれだけ広域の方から支持されたという1つの理由には、やはりSNSの発信があったのではないかなどというふうに思っております。

その中で今、リングをして、それでSNSに皆さん投稿されたということであるのですけれども、この活動はぜひ広めていっていただきたいなということ、横浜内外でももっとこの活動のほうを広げていっていただいて、万博に向けての機運醸成を図っていただきたいなということ、あと先ほどお話ししました大阪万博でのSNSの発信というところでは、やはりミャクミャクも1つの効果があったのかなというふうに思っております。

ミャクミャクのキャラクターは、頭につけたりとか、自分でかぶったり、あとほかのキャラクターとコラボしたりとか、いろいろな展開があったのですね。今回、万博で使われるキャラクターについては、横展開なんかもぜひ考えていただきたいなと思うのですけれども、自身でこれを身につけてキャラクターに変身できたり、ほかの企業様とのキャラクターのコラボ、そういったところもぜひ展開を考えていただきたいと思いますが、今のところどういった企業様と展開していくのかとか、何かこのキャラクターに自身が扮装できるようなそういった考えがあるのか等、お聞かせいただければなと思っております。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 ありがとうございます。まず、最後のほうのキャラクターとのコラボとかそういうところの活用でございますけれども、先ほども御説明させていただきましたけれども、今直近ではミャクミャクとのコラボのグッズとともに販売してということで、また崎陽軒さんとのコラボ商品も出るということで、協会のほうでもしっかりとそういうところの考えに基づいて考えていますので、ホストシティとしてもまさにそれをどう地域に広げていくかというところもございますので、これからしっかりと進めてまいりたいと思います。

それから、Blooming RING Actionの広がりという意味では、ありがたいことに大阪市のほうからもお声掛けいただいたて、向こうの大きい万博連携イベントなんかの公演なんかでも配布するような機会も与えていただいたりということで、なるべく多くの方に見ていただきて、またそれを発信していただけるような、そんなことを一体となって協会とやってまいりたいと思います。ありがとうございます。

- 長谷川えつこ委員 ありがとうございます。このリングをつけることで、当日会場に行ったときに何かちょっととしたサプライズがあつたりとか、そういうことも展開があるといいなというふうに感じております。

あと、万博の中身のほうが大分決まってきたということで、このような形でテーマ別にいろいろなブースのほうの設置が今後予定されるということですけれども、これからかもしれません、飲食等をする場所の個数、規模感、そしてどういったものをお考えであるのかお聞かせいただけたらと思っております。

- 五十嵐担当理事 今回の GREEN×EXPO におきましては、ビレッジの中にも Farm & Food というエリアがございまして、まさに委員の御指摘の食、あるいは農の文化、日本が育んできた農作物の伝統ですか調理などについても体験できるような趣旨のところがございまして、これからになりますけれども、営業出展ということで、大阪でも様々な店舗さんが御出展されてきましたけれども、そういうものを公募するというプロセスがございます。大阪・関西万博のすばらしい出展なども皆さん出展者、それぞれの企業が御承知でございますので、多くの企業、あるいは横浜、地元の企業に横浜色を出していただくような応募がなされるように、協会と一緒に取り組んでまいりたいと思います。

- 長谷川えつこ委員 ありがとうございます。万博の楽しみの一つに、やはり各国の食べたことのない珍しい食事、そういうものに触れるという機会も本当に楽しみの一つであるかなというふうに感じております。そして、ここで横浜の食事だったりとか浜なしとか、横浜の名産品みたいなものを PR する絶好のチャンスだと思いますので、そういうものも兼ね備えた飲食の計画を今後も立てていっていただければなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

- 市来栄美子委員 説明ありがとうございました。本 EXPO は横浜のブランド力を世界に発信するすばらしい機会になると思っております。先日、夏に大阪万博のほうに視察に行かせていただきました。ありがとうございます。

そこで、視察の中で説明されたというところで、まず周知、機運醸成の取組についてお伺いさせていただきたいのですけれども、視察に行かせていただいたときに、来場者の現状を教えていただいたときに、8月の初めでしたので、3000万人いる中での 12% が海外から、残りの 88% が国内。国内の内訳にしてみると、近畿圏が 63%、近畿圏より東が 25%、西が 12% というところで、国内外に向けての発信力というのでは非常に良かったのかなと思っておりまして、横浜が来場者数を超えていきたいという野望の下、今万博が終わりますので、終わるタイミングで本当にこれからが機運醸成の本番で、まさに鉄は打ちどきなんだなというふうに思いまして、質問をさせていただきます。

広く皆さんに周知していただくという意味では、前回の常任委員会のときに、パーセンテージ、市内の市民にどれぐらい周知されていますかというデータでは 6割ちょっとだったかと思います。次回のデータ収集が年末ぐらいというところで、この数か月が年末に向けて勝負になるのかなと思います。

そういう意味で、地域、企業、行政、海外に向けてどのような発信をしていくかということが非常に今大事になってくると思うのですけれども、夏祭りで地域を回らせていただいて、皆様から頂いたお声で、地域の自治会とか町内会とか、企業でいいますと、大きい企業は出展していただいているので横の広がりがあると思うのですけれども、都筑区には中小企業も多いですから、そういう小さい企業さんが機運醸成の波に乗りたいと。みんなで GREEN×EXPO を盛り上げたいというお気持ちを持っていらして、うちわとかにグッズの何かを載せたいというお気持ちがあったのですけれども、それがやっぱりできなかつた、いけませ

んということですね。商標権とかもありますので、またオンラインのほうもありますので、そちらの協会のほうとの組合とかの関係でできなかつたということを伺っておりまして、地域の方も中小企業の方々も非常に残念がっていたのですね。

なので、こういう方々に商標権を気にせずに、宣伝を内輪でもしていただけるような仕組みって御検討いただけるのであれば、ぜひ教えていただきたいなと思います。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 ありがとうございます。まさにこれから開幕に向けて機運醸成を高めていくというためには、今、委員がお話しいただいたような皆様の御協力が不可欠だと考えております。ただ、一方で、委員のほうからもお話がありましたように、マスコットキャラクターですとかを使うにはそれぞれいろいろ一定のルールがあるというところなので、直接そのまま使えないとか幾つか制約があります。

一方で、横浜市ですか地方公共団体とか、そういうところで使うという中では、調整しながらここまで使えるというようなところで決められているものもございますので、これから区民まつりですかいろいろな機会がございますので、一件一件となる形もあるかと思うのですけれども、そこは御相談いただきながら、どういう形で皆様のお気持ちも受け止めながら、できるかというのをやってまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

- 市来栄美子委員 ありがとうございます。もう1つお声がありましたのは、ほかの委員の方からもあったのですけれども、先ほどのミャクミャクの着ぐるみさんのお話でしたので、やはり親近感を持つために立体的なものに触れ合うということが心情的に大事だというところで、市民の方からのお声がございましたので、共有させていただきます。

あとは、行政としてどういうふうに立体的に宣伝していくか、醸成していくかというところで、例えばにぎわいスポーツの花火はもう終わってしまったので、三大夜景として今回されたヨルノヨとかで光はあるのは分かっているのですけれども、花の祭典なので花を使って GREEN×EXPO、そこでもコラボしながら、他局と横つながりで宣伝していくようなことも御検討いただけますでしょうか。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 ありがとうございます。まさに 2027 年は上瀬谷で GREEN×EXPO が開催されますけれども、横浜市全体がそれによって盛り上がるというそこが大事だというところで、庁内でもそういう形で、今、委員からお話がありましたにぎわい局なんかはやっぱり横浜を盛り上げるコンテンツを持ってますので、そこに向けてどう盛り上がりをしていくかというのは今まさに検討させていただいてございます。

そういう中で、今年から横浜ナイトフラワーズといった花火も、花とかこれから花と港とかいろいろなブランディングで動き出しているところもありますので、そういうところとしっかりと連携しながら、皆さんに別々じゃなくてしっかりとつながるような、そういうプロモーションを展開できるようにやってまいりたいと思います。ありがとうございます。

- 市来栄美子委員 ありがとうございます。最後に海外というところで、契約をしていただいた国以外にも、横につながって発信していくにはどうしたらしいのかなと考えておりますと、一番多いのがやはり中国で 5% というところなのですけれども、今多分いろいろな国からも来てまして、海外に向けてどうやって発信していくか。SNS ももちろんそうなのですけれども、何か I P コンテンツとコラボしたりとか、=前職= の話をしますと、全く私の知らないアニメとか全く違うところの興味を持った方々がすごく横に斜めに縦に情報が広がっていっているのは、日本のアニメとか日本の海外で活躍さ

れている歌とか美術を通して日本の文化を知ったりされている方が多かったものですから、海外に向けての考えていらっしゃる御検討の機運醸成の取組があれば教えてください。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長 ありがとうございます。国際園芸博覧会になりますので、海外のお客様もお越しいただくというのは大変大事だと考えております。今、私たちホストシティとしてプロモーションというところでは、500日前、1年前というところで、当然、横浜市内あるのですけれども、協会と一体で連携してやっていくということで、これから市内、県内、首都圏、それから全国ということで、会場に関する情報とかそういうところも熟度が高まったのを発信しながら、多分盛り上げていく形になります。

一方で、そういう流れの中で、海外の展開というところで、当然IPコンテンツとかそういうところでのフックをかけていくとかいろいろあるところがございますので、今日頂いた御意見なんかも=踏まえながら=、協会とも共有しながら、どういう形でできるか。それからまた、横浜自身もそういう実績で海外とか誘客とともにやってきている実績がございますので、そういうにぎわいの部署なんかともしっかりと連携しながらやってまいりたいと思います。ありがとうございます。

- 市来栄美子委員 ありがとうございました。次に、会場計画の検討状況のところなのですけれども、視察に行かせていただいたときにお話を伺って、そこで来場者の輸送状況が思っていたのよりも違ったという御意見がありまして、鉄道に関しては58.6%ぐらいかと思いまして、実は72.8%であったこと、また自家用車を使われる方が多いと思っていたのですけれども、そこが割と少なかったというところで、自動車で御来場いただけるような施策を緊急で考えていますというふうに8月頭におっしゃっていて、インセンティブを万博に来た方にはおつけするみたいな施策をするかもしれないみたいなことも言われていたのですけれども、今の段階では大体どれくらいの割合で計画をされていらっしゃるのかなと思ってます。

- 西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長 GREEN×EXPOの計画ということですか、それとも大阪の計画……

- 市来栄美子委員 ごめんなさい、GREEN×EXPOです。

- 西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長 GREEN×EXPOの計画でいきますと、通常期とか繁忙期によって若干のパーセンテージは異なるのですが、公共交通機関の想定が約4割ぐらい、団体バスが2割から3割ぐらい、自家用車も2割から3割ぐらいです。あと徒歩が5%程度という形で想定しているところでございます。

- 市来栄美子委員 ありがとうございました。皆様に心地良く来ていただけるような対策を打っていただければと思います。

最後になりますけれども、先ほどほかの委員からございましたように、GREEN×EXPO、横浜がないというところで、2027は要らないのではないかとか、2027じゃなくて2027はいけないとか、2027が正式名称であるとか、大阪万博が終わったので、2027の代わりにGREEN×EXPO横浜にしてはいいのではないかという御意見もありましたり、あと実際に大阪万博に行かせていただいたときの暑さ対策、今回横浜も3月から9月までというところで重なりますので、暑さ対策をしていただくこと、あと予約で入れないような人気のパビリオンですか予約に殺到してしまって、2時間も1日もかけなければいけないような状況があったかと思いますので、これらの対策に対しても何か御検討を前向きにしていただければうれしいなと思って、質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

- 久保和弘委員 1点だけお伺いしたいのが、私どもは視察させていただきました。やはり非常に暑いと。夏の猛暑を体験しまして、先ほど鴨志田委員から面白い話を、大屋根リングを一部横浜に持ってきたらどうかということで、先日私どもの大阪の市会議員団の皆さんと意見交換する場がありました、その中で大阪の

議会のほうでも今後、大屋根リングを一部残すかどうかというようなことについて、議会のほうでも話を進めるというお話がありましたけれども、先ほど興味深い話だなと思って伺いました。

現地には山下ふ頭にあったガンダムが逆に本市から大阪のほうに出張なさっているんでしょうかということで、様々な都市間の交流というか、あるいは資源を有効に活用していくということもあるのかなと思いましたのでお話しさせていただきましたけれども。1つだけ、夜間の涼しい時間帯を有効に活用していくという取組も十分検討していく余地があるのかなと思いました。例えば、ディズニーとかディズニーシーとかテーマパークにおいても、毎日じゃないんでしょうかけれども、時間帯をずらしてやっていくと。特別感を出して開催しているというようなこともありますし。猛暑の対策としても夜間の開催も大事だなと思うのが1つと、もう1つ先ほどヨルノヨという話がありましたけれども、港横浜を中心にしながら、ヨルノヨで本市のライトアップを一つの名物といいますか、本市の取組として大変にぎわいを催しているものがあると思います。

EXPOも夜間の開催を踏まえながら、時間帯等多少延長するなりということも含めて、港の沿岸部のヨルノヨ並びにGREEN×EXPOもリンクさせながら、取り組んでいくというようなことも興味深いかなと思いましたけれども、現時点のお考えみたいなものを1点伺わせていただきたいと思います。

- **村上担当理事** 特に今、委員の御指摘にありました夏場の夜間開催というのは、やはり涼しい時間に来ていただくというのはとても大事かなと思っておりますし、ただ近隣の方々もいらっしゃいますので、どういう演出をするのか。音の問題とかもあると思います。その辺りも配慮しながら組み立てる必要があるかなと思っています。

あと、都心臨海部のほうの夜のいろいろなイベントもございます。そういうところとどういうふうに連携できるか。夜同士のイベントだと重なってしまうことがあるかと思いますけれども、やはり都心臨海部のイベント、それから上瀬谷でのGREEN×EXPOのイベントをうまく連携させるということは、これからにぎわい局等々とも一緒にやっていきたいと思っておりますし、夜間開催の具体化につきましても、やはり都心のイベントも意識しながら、これから協会と共に練っていけばというふうに考えております。

- **久保和弘委員** ぜひ前向きに検討いただく余地がありましたら、やっていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

- **大山じょうじ副委員長** 御説明ありがとうございました。今日、機運醸成の取組等ということと、会場計画の検討状況ということで、それぞれにわたって幾つかお聞きしたいのですけれども、まず機運醸成の話は私も大前提として非常に難しいだろうし、悩ましいだろうなというふうに、これまでもそうでしたし、また今後もというふうに思っています。たまたま今、大阪・関西万博やっている中で、その運動じゃないですけれども、そちらがいろいろな意味で盛り上がっている中で、横浜でもという話の文脈で、こうした話もできるというのは、今、私なんかも地域では機運醸成にも役立っているなと思うのですけれども。

それで今日いろいろな取組をそれぞれ市のほうと協会のほうと進めているということですが、様々な角度から、改めてなのですけれども、機運醸成の結果、どのような指標というか、認知度になるのかもしれませんけれども、目標を持ってこれは進めているのか。その辺り、大前提の話ですけれども、お伺いできますか。

- **平原副市長** 先ほど委員から60%だったというふうな話がございましたけれども、中期計画の中で市内の認知度を今年度末90%に設定しています。せんだって各区長を集めて私のほうから、今こんな状況なんで、年度末の90%達成に向けてもうひと踏ん張りしようぜというふうな声掛けをしましたので、来年の3

月にはほぼ全市民がお知りになっているという状態にしたいなと思っています。

以上です。

- **大山 しょくじ副委員長** 私も成功を願っている多くの市民のうちの一人で、その観点からも聞いておるのですけれども、それで現状は先ほど 60%という紹介がありましたけれども、最新ではどれぐらいですか。認知度のことということです。
- **越智 GREEN×EXPO 推進部長** 今その後の調査は行っておりませんので、数値としては前回のままで変わらずという形になっています。
- **平原副市長** それで、この間区長を集めたときに、年末にもう一回調査するかもよと言って、ちょっと気合いを入れさせたところでございますので、その数字の調査をできればして、また公表したいなと思います。
- **大山 しょくじ副委員長** また、年末を経て、最後年度末に向けてということだと思うのですけれども、なかなか9割というとかなりの数字だなというふうにも思いましたが。それで、例えば私も今日これを頂いたんであります、B loom ing R INGとか、これについては1万 2000 配布ですか、あと先ほど質疑の中ではナンバープレートが 6674 件とかありましたけれども、それぞのほうのアウトプットというか、その辺りの目標というのはあるのでしょうか。そうした数字が出てこないものもありますけれども。
- **越智 GREEN×EXPO 推進部長** ナンバープレート、それからB loom ing R ING、それぞれのところで具体的な幾つ目標という形では進めていますので、事ある機会のごとにそういう形で広がりというか、PRさせていただくという形でやってございます。PRという意味では、公用車のほうなんかも先導的に取り付けさせていただいて、皆さんの中に触れてという、そういう形で展開していると。そういう状況でございます。
- **大山 しょくじ副委員長** それで当然、市のほう独自の話だとか、あと協会のほうでいろいろ業者さんに委託をかけてPR、機運醸成等の業務委託ということで進めたりもしています。これも1億数千万、年間でかけてやっているところなのですけれども、いろいろな取組だから隠し球も皆さん持っていますが、今は言えないとかそういったこともあるのかもしれませんけれども、さっきの年度末9割というところもこうした委託を受けている事業者さんもちゃんと共有できてやっているのかとか、そうしたところも含めて、今後の機運醸成の取組、もう少し言えることがあつたらお伺いできますか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 協会と横浜市と連携して機運醸成に取り組んでいるところでございます。広く地域的なところですか会場のことについては協会のほうが主体的に行い、そして我々ホストシティとして横浜市民や市内企業の皆様方へのPR、これは機運醸成、あるいはEXPOのみならず、やはりその後のレガシーをどうつないでいくか。横浜市の政策に関わるところですので、横浜市として積極的にやっていく部分ということで、役割はより分けて考えているところです。
そういう中で、協会のいわゆるそれぞれの契約でどういうふうにより分けてやっていくかというところは、細かいところまでは我々も口を出すものではないのですけれども、今みたいな役割の中で、横浜市においてはやはり市民や企業の皆様方、先ほども 60%から目標 90%、そういうところに向けてしっかりと歩んでいくというのは、我々のいわゆる今後の委託業務ですか会場計画ですかいろいろなところの中で、そういうことを盛り込みながら、これから開催までの 537 日、あるいは開催中も含めてしっかりとやっていきたいと考えております。
- **大山 しょくじ副委員長** ということで、今回改めていろいろそうした委託の話なんかも見て、全部見切れ

ていないのですけれども、せっかくの民間のほうの力もということだと思いますので、しっかりそことも連携を取って進めてあげていっていただくようにと思いますし、あとはさっきSNSという話もありましたけれども、思わぬところでバズったりとかして、当然時期が迫ってくると急にもっと認知度というか、関心も高まっていくものと思いますので。私も今1年半前の段階で、今日議題ですからこうして聞いていますけれども、これからまだまだ1年半ありますので、そうした工夫もしながら進めていっていただきたいと思います。

それでもう一点その件に関して、こちらの資料の1の大坂・関西万博と連携したの中で、1日数回程度のPR動画の放映ってありますけれども、恐らく協会が出している動画だと思うのですけれども、その理解でよろしいでしょうか。2種類あって。

- 越智 GREEN×EXPO 推進部長　　はい、そのとおりでございます。
- 大山しょうじ副委員長　　これは、市庁舎の2階の例の一角のところずっと流していますよね。エンドレスなのか何か。私も2種類見まして、2分ちょっとかな、今のタイミングとしては非常によく分かるというか、あつと思ったというか、行きたいなと思ったところもあって、そういう意味じや今こうした短い動画とかでしっかり皆さんの関心を寄せるというようなところで、そういう時代なんだと思うのですけれども、再生数を今朝見たら、1つの開催2年前GREEN×EXPO 2027年の見どころ、2025年3月作成が3万660回で、もう1つのほうが園芸博の魅力を発信、これが2万件ぐらいで、私も素人で分からぬのですけれども、結構回っているほうなのかなというふうに思いましたので、また恐らくこうした動画の活用については、今後も違うバージョンを恐らく作ってやるんだと思うのですけれども、その辺りの動画のこうした活用について、いろいろな情報を少しづつ出しながら機運を高めるんだと思うのですけれども、その辺りについては局長、どのようにこの活用は考えておられますか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長　　今ちょうど委員が御示唆いただきましたとおり、2つの動画がありまして、1つは初めてEXPOを知る方々に分かりやすいもの、もう1つは会場計画とかある程度分かるということで、今作成を協会のほうでしております。

今後は、さらにいろいろなバージョンアップをしながら、もっとGREEN×EXPOを知っていただき、そして興味を持っていただき、参加したくなると。こういったものを用意していかなければいけないと考えているのですが、これもターゲットとして市民の皆様向け、あるいは企業の皆様向け、こういったターゲットのところもございますので、どういったターゲットに対してどういうふうに打ち込めるのか、これをしっかりと見極めながら、有効な動画を作成し、そしてこれは日本語のみならず英語とかでも作成して、世界に向けて発信していくかなきやいけないと考えていますので、協会と連携して、これから徐々にバージョンアップをいろいろしながら取り組んでいきたいと考えております。

- 大山しょうじ副委員長　　お願いいいたします。

次に、会場計画の検討状況に絡んでですけれども、先ほど大阪・関西万博の連携というか、今こうして一緒にいろいろやっているところもあって、鴨志田委員から先ほど大胆な御提案ですばらしいなと思ったのですけれども、大屋根リング何とかという話と、他方、私の承知しているところで、パナソニックのグループのほうで今度企業パビリオンの東邦レオさんのほうのパビリオンで、骨組みみたいなのとかいろいろなものを持ってきて、それをこちらのGREEN×EXPOでも使うというのを私も報道で知っただけですけれども、その辺りについて御披露いただけるようであれば。

あわせて、これは皆さんのが仕掛けたのか、あるいは民間同士でこういう話になって進んでいるのか、その辺りもお聞かせいただけますか。

- **五十嵐担当理事** 副委員長の御指摘のとおり、先ほどほかの委員の御指摘にもありましたけれども、サーキュラーエコノミー、循環経済というものを非常に重視したということを各出展者、それから事業者の皆様方にも協会を通じて周知していただきしております、その結果として大阪・関西万博、あるいはさらに先に使われたものも含めて、ワイスユースしていくということが浸透しているという結果じゃないかと思います。

御指摘のことにつきましては、民間のほうで検討されているものでございますけれども、永山祐子さんという建築家の造られたモジュールというものをドバイから大阪・関西万博、そして私ども GREEN×EXPO という順番で使えないかとか、あるいは向こうで使われていた様々な部材についても、それぞれの出展企業さんの中でうまく引き取って活用できないかということをお考えいただいているというふうに聞いておりまして、我々としても経済を回し、同時に物質循環を回していくという地球環境に優しいGREEN×EXPOを目指すという観点からも良い取組だと思っておりまして、さらに加速するように協会と共に努めてまいりたいと考えております。

- **大山しようじ副委員長** 循環型社会とかグリーン社会とかサーキュラーエコノミーとか、大阪・関西万博にも GREEN×EXPO にも共有するそうしたところで、いい取組だなと思ったのですが。あと大阪・関西万博があと少しで終わりますが、もう間に合わないかもしれませんけれども、もし同じようなそうしたいろいろな仕掛けがまた市のほうでも考えてできるようであれば、進めていただきたいと思うのですけれども、その辺り今お話をあったかもしれません、局長のほうから。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 環境をテーマとする GREEN×EXPO でございますので、今、委員から御指摘いただきましたとおり、非常に大切な取組だと思います。できる限りそういう素材を我々のほうで活用し、そしてまた GREEN×EXPO が終わった後、その素材もしっかり活用できるように考えて、協会とも連携を取りながらやっていきたいと考えております。

- **大山しようじ副委員長** 最後、開催地出展のことですが、やはり開催地なんで、皆さんすごい期待をしているし、当然市も協会も力を入れてやるのは分かっておりまして、あと 1 年半の間に本当に練り上げてやっていかれるんだろうなというふうに思うのですけれども。大阪・関西万博の場合、大阪ヘルスケアパビリオンが非常に人気であるということは、テーマの一貫性というか、あと 25 年後の自分とか社会を世界に行くとか、皆さんのがわくわくするようなところもあって。やはり、これを見に行くんだとか、これを見たとか、先ほど子供の V i l l a g e の話もありましたけれども、こちらの開催地出展、そういう意味じゃ皆さんも当然のことでの、その辺りは物すごく力を入れて、これから絶対にさすがこれは横浜だというようなものをつくり上げていただけるとは思うのですけれども。そこは全体の中でも目玉だというようなことも含めて、その辺りを局長のほうから決意というか、搖るぎないそうしたものをやるんだというのをお聞かせいただければなと思います。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 市出展につきましては、やはり全体の会場の中でも特別ホストティとして我々が中心となりながら組み立てなければいけない。そして、国内のみならず海外、世界に向けてもしっかりと横浜の取組を発信していく場にしていかなければいけないと強い思いを持っています。

したがいまして、この中に建物とか外観だけではなく、どういったコンテンツを埋め込んで行催事をしていくか、そういうのも含めでしっかりとこれから検討し、この中でも魅力のある、横浜の出展のところにぜ

ひ訪れたい、こういうようなことになるようにしっかりと取り組んでいきたいと思います。

- **大山しようじ副委員長** ありがとうございます。最後にしますけれども、今回のこのようないで開催地出展のいろいろプロローグから、大体こういうイメージでというのはお知らせいただいたのですが、他方、皆さんもネタばれになることがあってもいいし、そのときそのときで出し方もあると思うのですけれども、今後も何かしら我々にとってもこうした形で横浜市が面白く、心に残るような、そうしたものをやろうとしているよみたいな発信もしたいので、こうした報告みたいな形で、どういうタイミングになるのか分からぬのですけれども、お願いしたいのですけれども。その辺りの情報の出し方とかを含めて、最後にお聞かせいただけますか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** ある程度まとまった段階では、当然こういった常任委員会ですとかそういう機会を捉えてしっかりと御報告させていただきますし、また検討の途中でございましても、例えば企業の皆様に公募をかけてアイデアを募るとか、節目節目がございますので、そういった節目節目では委員の皆様方にも個別とかいろいろな形で情報提供させていただきまして、むしろ御意見も頂いて、しっかりと良いものをつくり上げていきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。
- **長谷川えつこ委員** 質問させていただきたいのですけれども、残念なことに大阪・関西万博のほうでは盗難やそういった窃盗の被害などが多いということをニュースで見受けさせていただきました。その中で1つ心配なのは、各国から多種多様で珍しい植物がこの万博に来る中で、種苗法の観点からそういったものが盗まれたりとか持ち出された場合というのは大変危惧するなというふうに感じております。そういったところにしっかりと何らかの整理をしていく必要があるかと思いますが、今のところ対策等は何かございますでしょうか。
- **村上担当理事** 今、委員がおっしゃられた対策も含めて、安全管理というのですかね、盗難も含めて、各国からの珍しいもの。あとは、来場者の皆様が安心して訪れていただくような、いわゆる危機管理体制というものはとても重要だというふうに思っております。これは、博覧会協会のみならず、横浜市の危機管理室とも連携を取りながら、これから警備体制も含めてしっかりと練り上げて、また御報告させていただければと思っております。
- **長谷川えつこ委員** 出展される各国の方が安心して御自身たちの珍しいといった植物、そういったものの展示ができるような配慮をぜひお願いしたいと思いまして、私の質問を終わります。ありがとうございます。
- **大桑正貴委員長** 他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

まだ議題も残っておりますが、少し長くなっていますので、この際休憩をしたいと思います。再開時間は12時半といたします。

休憩時刻 午後0時19分



再開時刻 午後0時30分

- **大桑正貴委員長** 休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。



◎ 旧上瀬谷通信施設における基盤整備等の状況について

- **大桑正貴委員長** 次に、旧上瀬谷通信施設における基盤整備等の状況についてを議題に供します。

当局の報告を求めます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 旧上瀬谷通信施設における基盤整備等の状況につきまして御説明いたします。資料3を御覧ください。

1ページにお進みください。本日は、5つの項目について御説明さしあげます。

2ページにお進みください。土地区画整理事業の進捗状況についてでございます。GREEN×EXPO会場周辺におきまして、開催時に必要となるインフラ整備を先行して進めております。治水対策を目的とした調整池の工事を進めており、地下式の相沢川調整池では、コンクリートブロックの据え付けが年内に完了いたします。会場へのアクセス路となる上川井瀬谷1号線では、工事用迂回路を整備しながら、安全かつ効率的に工事を進めております。

3ページにお進みください。公園整備事業の進捗状況です。EXPO会場となる公園区域内では、園路の整備や樹木の植栽など基盤整備を着実に進めております。相沢川や和泉川周辺では、専門家の助言も踏まえまして、多様な生物の生息環境を保全しながら、里山景観の再生を進めております。

また、新たな桜の名所づくりに向けて、これまでに約30品種400本の桜の植樹を実施いたしました。

4ページにお進みください。周辺道路整備事業の進捗状況でございます。日常的な渋滞解消や新たなまちづくりに向けて、また、EXPO開催時における円滑な交通確保につながる、道路整備・交差点立体化等を進めております。

八王子街道は、全区間で拡幅工事を進めております。特に目黒交番前の交差点におきましては、現状で渋滞が発生しております。前後区間の拡幅整備を先行的に進めており、11月に一部供用開始を予定しております。

目黒交番前交差点における環状4号線の立体化工事では、橋梁基礎ぐい工事が完了し、橋桁製作を順次進めております。

瀬谷地内線は擁壁工事を進めるなど、全区間で工事に着手しております。

5ページにお進みください。都市計画の検討状況でございます。旧上瀬谷通信施設における土地利用基本計画やデザインノートを踏まえまして、4地区の土地利用の方針を地区計画に定めます。

物流地区につきましては、施設計画の調整が整ったため、緑地の設置や建物の用途制限等の地区整備計画を併せて地区計画に定めます。

9月下旬に都市計画市素案説明会を開催し、令和8年秋頃の都市計画決定を目指してまいります。

資料の中ほどから下でございますが、土地利用の方針案と都市計画の手続についてお示しておりますので、後ほど御覧ください。

それでは、6ページにお進みください。参考といたしまして、事業者が8月19日にプレスリリースいたしました事業者による物流地区における施設計画の概要を記載しております。

本施設は関東圏初の次世代基幹物流施設といたしまして、2027年秋以降の着工、2031年頃の竣工を予定してございます。

自動運転トラックによる幹線輸送など新しい物流システムに対応し、物流業界の人手不足解消や配送の効率化を図ることで、国が2040年までに実現を目指す新しい共同配送の仕組みであるフィジカルインターネットに寄与する施設となります。

7ページにお進みください。新たな交通、新たなインターチェンジの検討状況でございます。

(1) 新たな交通でございますが、瀬谷・上瀬谷間の専用道の整備に向けた設計を現在進めております。関係機関との協議等が整い次第、都市計画の手続を進めてまいります。

また、本市西部地域の交通ネットワークの構築に向けて、基本計画の検討を、学識経験者や路線バス等の運行ノウハウを有する事業者と共に進めております。

(2) 新たなインターチェンジでございます。線形・構造等の施設計画案について、関係機関等との協議がおむね整ったところでございます。地域の皆様への説明を進めております。

引き続き、環境影響評価の手続を進めるとともに、年度内に都市計画の手続に着手してまいります。

説明は以上です。よろしくお願ひいたします。

- 大桑正貴委員長 ありがとうございます。報告が終わりましたので、質疑に入ります。

- 鴨志田啓介委員 御説明ありがとうございます。GREEN×EXPO 2027 向けた様々な工事が順調に進んでいるということで安心しております。引き続き、安全かつ着実に工事を進めていただきたいと思います。

我が党といたしましても、EXPOはもとより、その後の上瀬谷のまちづくりについても応援しております。旧上瀬谷通信施設地区内に物流地区を皮切りに、4地区の将来の土地利用に向けた都市計画手続がいよいよスタートするということで、とても喜ばしく今後に期待しているところです。

今回示された新たな中期計画の基本的方向では、都心部と郊外部によるダブルコアのまちづくりが掲げられていますが、まず郊外部のコアになる上瀬谷における活性化拠点の形成に向けた考え方について、副市長に伺います。

- 平原副市長 この上瀬谷でございますけれども、先ほどもお話に出ていましたが、約70年間接収されていたということで、土地をお持ちの地権者の皆様、約250人いらっしゃいますけれども、自由に土地利用ができない。そういう状況から、横浜市としても基盤整備に投資ができないというふうな状況が続いていました。250人の地権者の皆様、いろいろな思いをお持ちだと思います。

それから、上瀬谷の特徴として、農地とか、それから豊かな自然というのがこの地区の特性になっております。また、地理的には東名高速、保土ヶ谷バイパスに近接するという立地特性も持っております。こういった上瀬谷の歴史を振り返ると、これから横浜市としても全力でまちづくりを進めていかなければいけないというふうに考えているところでございます。

先ほど説明いたしましたインターチェンジの整備も行いたいと思います。これは、横浜市としては上瀬谷地区に設けます広域防災拠点の機能が最大限に発揮できるようにという思いがございます。

それから、新たな交通の整備についても御説明しましたが、本市西部地域の交通ネットワークを構築するというふうな大きな目標がございます。上瀬谷地区が中心になりますけれども、上瀬谷地区のまちづくりをきっかけに、本市西部地域の発展に向けて、それぞれの事業をしっかりと進捗管理しながら全力で取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

- 鴨志田啓介委員 ありがとうございます。今日詳しくお聞きしたいのが、今回説明があった物流地区と新たなインターチェンジ、瀬谷地区全体のまちづくりについてですけれども、まず物流地区についてですが、資料6ページで御説明いただいた次世代基幹物流施設ですけれども、事業者が施設計画を記者発表した際に多くのメディアに取り上げられておりました。

そこで、次世代ということで、次世代基幹物流施設とはどういった施設なのか、改めて確認させていただきます。

- 村上担当理事 いわゆる次世代基幹物流施設、なかなか新しい言葉だと思います。これは、自動運転のトラックといった次世代のモビリティの発着基地となるような大規模な物流拠点ということで位置づけられてございます。特に最新のテクノロジーを取り入れながら、従来の物流施設よりもより効率的で柔軟な運営を可能にする施設ということでございます。

特に物流業界につきましては、皆様個々で最近お店に買物に行かなくて、御自宅で買われるような方も多くなってきて、物流業界の人手不足というものがかなり言われていると思います。そういった意味で、配送の高効率化を図ることで、国のはうで2040年、令和22年までに実現を目指すという新しい共同配送の仕組みである、いわゆるフィジカルインターネットというものがございまして、そういうものにも寄与する施設というふうになる予定でございます。

- 鴨志田啓介委員 ネット通販を私も毎週、毎日のように利用させていただいておりますが、毎日何かしら荷物が届くという、今そういう世の中になってきていると思います。

一方、2024年4月から施工される働き方改革関連法により、トラックドライバーの時間外労働の制限や休息時間の確保などが義務づけられたため、ドライバー不足や輸送能力の低下が懸念されて、いわゆる2024年問題が発生しており、このことの対策が急務であると感じています。

これまでも政府は様々な対策を講じていると思いますが、今御説明のあったフィジカルインターネット、また新しい言葉だと思いますけれども、その一つであると認識していますが、改めてフィジカルインターネットはどういうものなのか伺います。

- 村上担当理事 フィジカルインターネット、こちらも新しい言葉だと思います。これにつきましては、特にAIなどのデジタル技術を駆使しながら、荷物ですとか、あと倉庫、車両の空き情報など見える化して、複数の企業でシェアする次世代型の共同輸配送システムというふうに言われております。

具体的には、複数の企業が倉庫ですか、あとトラックなどをシェアするためのプラットフォームをつくりながら、例えば積荷の形状を標準化していく。あとは、荷主さんですか物流事業者が共同で利用できる拠点整備などを行うことによって、効率的な輸配送の実現を目指すというようなものになってございます。

これが実現されると、効率良く、いわゆる車両というか、トラックに掲載できるようになりますし、必要なトラック台数が減るということで、国内の総輸送距離が約2割ほど削減できると見込まれていて、トラックドライバーの不足の解消ですか、あとはひいては排気ガスの抑制にもつながるというものが期待されるものでございます。

- 鴨志田啓介委員 今までではトラックというのは業者ごとが持っていたと思いますが、そうではなくて、共同でコンテナ等をみんなで空きがないように詰めて使っていくという考え方だと思いますけれども、これはとても先進的で面白いと思いました。今のバス事業についても、フィジカルインターネットってもしかしたら応用できるのではないかと思いつつ、また研究も進めていきたいと個人的には思っております。ありがとうございます。

そして、今回、上瀬谷に整備される次世代基幹物流施設が関東圏初の施設として上瀬谷に整備されることの意義について、どのように考えているか伺います。

- 村上担当理事 いわゆる今回の物流を行います事業者が、関西圏の京都府に城陽というところがございまして、京都府の城陽市においても次世代基幹物流施設の開発計画というものを発表してございます。いわゆる関西圏の京都、それから関東圏の上瀬谷、それらがつながることによりまして、関東圏初の次世代基幹物

流施設、横浜にできますこの施設と、併せて京都と結ぶことによって物流の効率化が劇的に進んで、交通の負荷の低減ですとか、それに伴う脱炭素化にも大きく寄与するというふうに考えてございます。

また、上瀬谷が関東圏における物流の玄関口というふうになることによりまして、地域産業が活性化して企業誘致が促進されること、あとは低コストで安定的な物資供給の実現ということが可能になりますので、市民の皆様の生活の利便性の向上というのも見込まれるというふうに考えてございます。

- **鴨志田啓介委員** 物流の課題に対応する非常に重要な施設であること、また上瀬谷に整備する意義について分かったところです。上瀬谷を本市西部地域の活性化拠点としたいという視点で考えると、物流施設以外にもまちづくりへの貢献が必要だと思いますが、事業者は地域に対してどのような取組をするのか伺います。
- **村上担当理事** この施設の計画に当たりましては、横浜市も連携しながら、事業者だけでなく横浜市も一緒になりながら、周辺地域の皆様に対しまして何度も繰り返し説明を行ってまいりまして、地域の皆様の声をしっかりとお聞きしてきているところでございます。

かなりいろいろな御意見を頂いているのですが、そういうものも踏まえまして、横浜市のほうから事業者のほうにお伝えしている内容として、敷地内に海軍道路の桜並木の接ぎ木などを活用した桜並木の継承、いわゆるレガシーとしての継承ですとか、周辺の地域の皆様が憩えるような広場の整備、それから上瀬谷地区の在来種を中心とした中高木などを織り交ぜて、季節を感じられる涼感のある、いわゆる物流施設という箱物の無味乾燥したものだけではなく、多様な緑というものを感じられるようなものにするような計画となるように、今、事業者さんと協議をさせていただいているところでございます。

- **鴨志田啓介委員** 今年3月に策定された新たな地震防災戦略で、上瀬谷地区に広域防災拠点を整備するとともに、物流施設についても防災活用などを検討することとされていました。防災面での物流施設との連携について、どのように考えているか伺います。
- **村上担当理事** この物流拠点というものにつきましては、もともと上瀬谷の土地利用の中で地域の皆様から出たものでございます。ただ、その後に、今、委員の御指摘にありました新たな地域防災戦略の中で、上瀬谷地区に広域防災拠点を整備するということになりましたので、次世代基幹物流施設というものの特性を生かして、救援物資などの受入れですか、あと配達に係る協力を事業者の方に要請することで、いわゆる4地区ある、ゾーンのある公園のほうは防災公園地区というふうに今位置づけをしてございますが、防災公園地区に整備する広域防災拠点と連携して、横浜市の防災機能の向上にもつなげていければというふうに考えております。

こういった次世代基幹物流施設の特性を生かした取組というものを進めることで、先ほどのいわゆるトラックドライバーの不足ですか、あと排気ガスの問題、そういった広範囲の取組と併せて、将来にわたって安全で、防災という視点も取り入れることによりまして、将来にわたり安全安心で利便性の高いまちづくりというものを実現していくればというふうに考えております。

- **鴨志田啓介委員** 次世代基幹物流施設の実現に向けては、しっかりと市も後押しし、支援をしていただきたいと思います。

次に、資料7ページで御説明いただきました新たなインターチェンジについて伺います。今回初めて施設計画案が示され、具体的な線形や構想が明らかになったことは、ますます地域からの関心や注目が高まっていると思います。

事業を円滑に進めるためにも、地域の皆様への丁寧な説明や情報提供が必要だと思います。そこで、地域の

皆様への説明を進めているとのことです、その状況について伺います。

- 落合上瀬谷交通整備部長 地域の皆様への説明の状況でございますが、これまでインターインターチェンジの必要性であったり整備目的であったりを中心に説明させていただいてまいりましたが、このたび施設の計画が案という形でまとまつてきましたので、より具体的な形で地域の皆様へ御説明を始めていきたいと思ってございます。

先週の12日の金曜日と13日の土曜日になるのですけれども、地域の皆様を対象に、これらの具体的なインターインターチェンジの構造であったりとか、利用の仕方とか、そういうことについての御説明をさせていただいたところでございます。

今後も説明のほうは丁寧にさせていただきながら、都市計画とか環境影響評価の手続もやってまいりますので、丁寧な御説明をさせていただきたいと思っている次第でございます。

- 鴨志田啓介委員 今後の環境影響評価や都市計画手続においても、引き続き丁寧に対応していただくようお願いします。

この物流施設の竣工時期は2031年頃ということで、インターインターチェンジの整備も着実に進めていただく必要があります。そこで、新たなインターインターチェンジの現時点での供用目標について伺います。

- 村上担当理事 インターインターチェンジにつきましては、これまで2030年代前半を目標というふうに我々のほうとしてお伝えしてまいりました。ただ、インターインターチェンジそのものが、先ほど申し上げました物流を含めた上瀬谷のまちづくりにとってとても大切なインフラというふうに考えておりますので、極力早いタイミングでの供用を我々も目指していきたいというふうに思っております。

ただ、整備に当たりましては、対象エリアに約40件の地権者がいらっしゃいます。その方々の御理解を頂く必要が当然ございますし、あとは都市計画や環境影響評価の法的手続もございます。さらには、国土交通省、あとは中日本高速道路会社といった関係者もございますので、そちらの皆さんとの協議も進めていく必要があるといった調整事項も多々ありますので、物流言いながら、物流施設の竣工時期というのも念頭に置いて、供用開始時期をこれからしっかりと見極めていくようにというふうに考えてございます。

- 鴨志田啓介委員 今の御説明のような丁寧なお話、引き続き市民の皆様に意見をしっかりと聞きながら、上瀬谷のまちづくりを着実に進めていただきたいと思います。この経済波及効果というのも計り知れないものになると思いますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

- 宇佐美さやか委員 ありがとうございます。新たな交通について伺いたいのですけれども、7ページの図では横浜線と地下鉄ブルーラインとつながるように描かれているのですけれども、これからこういうふうに乗換えなしで行かれるようになるということでおろしいですか。

- 落合上瀬谷交通整備部長 新たな交通の計画につきましては、今、委員のほうからおっしゃられたとおり、横浜線と地下鉄ブルーラインの間を南北方向につなぐような地域公共交通を整備していきたいということで進めております。

乗換えなしで直接行けるかどうかということにつきましては、今後の検討の中でどのような形なのか決まってくると思っております。

- 宇佐美さやか委員 工事の準備、まだまだ全然先だと思うのですけれども、先に瀬谷と上瀬谷の2キロを造る、2キロだけ整備する、そこから前後というか、上下に通っていくというふうな考え方なのでしょうか。

- 落合上瀬谷交通整備部長 今検討の進め方なのですけれども、瀬谷駅から上瀬谷の間、この間の専用道の

設計を進めているということと、併せてそれの上下といいますか、南北方向のネットワーク、セットで検討のほうは進めさせていただいております。

- 宇佐美さやか委員 まず2キロ先に造るとかいろいろ、花博の開催時期とは全く全然別の話になると思うのですけれども、そこからテーマパークですとかに来られた方々が乗るような2キロだけを先に造るというふうなのかなと勝手にイメージしているのですけれども、そういうふうではなく全て一気に開通させるという、よろしいですか。
- 落合上瀬谷交通整備部長 インフラの整備につきましては、瀬谷・上瀬谷間は図に描かせていただいているような専用道ということで考えてございますが、その上、上瀬谷から十日市場方面であったりとか、瀬谷からいざみ中央の方面ですかね、こちらは既存の環状4号線を中心に、既存のネットワークをつなぎながら、公共交通を整備していきたいというふうに考えている次第でございます。
- 宇佐美さやか委員 バスが走るというふうに思えばいいでしょうか。
- 落合上瀬谷交通整備部長 はい、そのとおりでございます。
- 宇佐美さやか委員 乗換えなしでというのはおかしな話なんだなというのはよく分かったのですけれども、専用道が2キロで、あの道路は既存の道路ということで整理してよろしいですか。
- 落合上瀬谷交通整備部長 はい、そのとおりでございます。
- 宇佐美さやか委員 ありがとうございます。専用道を造るのは2キロということがよく分かったのですけれども、これから延長していくということで、横浜市営交通ですかJRとかとはこういう話をされているのでしょうか。つなげていくよということは、話はされているのでしょうか。
- 落合上瀬谷交通整備部長 今御指摘いただきましたJRであったりとか、地下鉄であったりとか、具体にどこの駅というところはこれから検討になってまいりますので、そういう段階になってから御相談させていただくのかなと思ってございます。
- 宇佐美さやか委員 新たなインターチェンジのほうになるのですけれども、私は13日に説明会に伺わせていただいて、市民の皆さん質問とか不安の声をいろいろ聞かせていただいたのですけれども、近隣道路の混雑ですか工事費の軽減のために、横浜町田インターチェンジを使えばいいのではないかという意見もあったりとかして、確かにインターチェンジを造るということが決定事項のように説明されていたのですけれども、そこは今から=覚える=のですけれども、どこからの声でインターチェンジを整備するかというのを伺いたいのですが。
- 村上担当理事 実は、旧上瀬谷通信施設の250人の地権者の皆様と練り上げた土地利用基本計画がございまして、それに基づきまして、いわゆるエリアデザインノートというものをちょうど令和5年2月に策定しております。それも=地権=地域の皆様、あと市民意見募集も経まして、エリアデザインノートというものを旧上瀬谷地区の4ゾーンの土地利用をさらに深掘りするような表現でまとめたものがございます。
その中で新たなインターチェンジの検討の言葉を入れさせていただいておりまして、それが物流施設とのいわゆる連携という形でうたわせていただきました。その後、先ほど御説明申し上げましたように、公園防災地区のほうに横浜市としての地震防災戦略に基づく防災拠点ができるということで、防災機能にも寄与するようなインターチェンジの整備というものを横浜市として方針として決め、確実に整備をする、そういうようなプロセスを経てきております。
- 宇佐美さやか委員 地権者さんの声ですか防災のためと言われると、なかなかいろいろ言いづらくはな

るのですけれども、物流施設の事業者のためにインターチェンジを整備するというふうに受け取れるような配置図になっているので。それから、この事業費はどれぐらいだと想定されているのか伺います。

- 落合上瀬谷交通整備部長 現時点の想定で、インターチェンジ全体で360億円というふうに概算金額を出してございます。
- 宇佐美さやか委員 360億円でインターチェンジを造るということなのですけれども、このインターチェンジはスマートインターチェンジを想定しているのか。その場合、本市の負担割合というのはどれぐらいになるのかお伺いします。
- 落合上瀬谷交通整備部長 スマートインターチェンジという言葉がETC専用のインターチェンジかということであれば、そこら辺についてはまだそういうふうには決めてございません。料金所になるのかなというふうに思っている次第でございます。
- 宇佐美さやか委員 スマートインターチェンジを近隣でいうと綾瀬市が導入して、物価高騰の影響とかで物すごい高額になってしまったということもあるので、こういうようなことにならないようにしていただきたいなというふうに思ったので伺わせていただきました。

青写真、既にいろいろ計画を出されている中で、説明会も開かれて、工事費360億円というふうに想定していて、物流地区の事業者との費用負担割合、交渉はされているんでしょうか。

- 落合上瀬谷交通整備部長 物流事業者様のほうと費用の負担割合につきましては、今概算事業費ということで、今後事業費が精査されてくる中で、実際どの額になるかという協議になってくると思っております。
- 宇佐美さやか委員 これから協議ということなのだと思うのですけれども、この都市計画の検討状況を示されているイメージパースでは、西棟と東棟の間に道路が整備されている絵になっていて、西棟の前の道路は6ページ、物流地区の敷地内になっていると思うのですけれども、これは横浜市が提供する道路という認識でよろしいですか。
- 落合上瀬谷交通整備部長 6ページのパースのほうの東棟と西棟の間から出てきて、図でいうと左下のほうに出てくる道路につきましては、物流事業者の方で整備するものと認識しております。
- 宇佐美さやか委員 ありがとうございます。使う事業者さんのものだと思うので、横浜市が整備する必要はないなというふうに思ったので、物流事業者さんにしっかり請求していただきたいというふうに思います。先日の説明会で頂いた資料では、料金所を物流地区と観光・にぎわい地区の間に設けていて、仮称=上河井瀬谷3号線=の断面図には片側の歩道と車道と、反対側の車道と歩道の間に広い空間が描かれているのです。この空間は何だろうというふうに思うのですが、今資料をお持ちじゃないかも知れないのですけれども、これはどういったものになるのかというのを御説明いただけないでしょうか。
- 落合上瀬谷交通整備部長 今、委員から御指摘があった場所なのですけれども、今スクリーンに映し出されている図でいいますと、青い2本の線があるかと思いますが、その間の白いところでございます。そこは、インターチェンジが青い道路の間に入りますので、物理的に空いてしまうというか、中央分離帯というのですかね、そういうような位置づけのものになってきます。
- 宇佐美さやか委員 中央分離帯ということは、先ほど私が言った6ページの西棟の正面になる道路の下になるというイメージでしょうか。
- 落合上瀬谷交通整備部長 今スクリーンに映し出されている物流地区から入ってくる道路の下に白い部分というのが重なるということになります。

- 宇佐美さやか委員 道の説明がちょっと下手ですみません。皆さんにお分かりいただけたか分からぬのですけれども、この下になるということはよく分かりました。物流地区の事業者さんには負担をしてもらう協議をこれからしていくということだと思うのですけれども、先ほど伺ったのですけれども、やはり観光・にぎわいゾーンの中にも使われるようになると思いますので、そちらの地区の事業者さんにもしっかりと整備費用を負担していただく必要があると思うのですが、ここは何度も求めているのですが、いかがでしょうか。
- 村上担当理事 今、事業者というか、物流事業者のほうとはインターチェンジの費用負担協議を、今、落合が答弁したように、話し合いを進めて、これからさらに金額だとかを詰めていくことだと思います。今、委員に頂いた御意見は、今日の段階では事業者さんのほうにはお伝えするにとどめて、まだどういうふうにこれからやっていくのかということについては未確定な状況でございますので、こういう御意見があったことを事業者の方にお伝えさせていただきます。
- 宇佐美さやか委員 これからまだまだ先になるとは思うのですけれども、テーマパークを核としたというにぎわいゾーンになると思うので、こちらのほうでしっかりと事業をされる方々には、それなりにしっかりと税金も収めていただきたいと思いますし、横浜市民が負担するものではないと思いますので、そこはしっかりと協議をしていただきたいというふうに思います。
- こがゆ康弘委員 ありがとうございます。私、昨年2月以来、新たな交通とか新たなインターチェンジについて、必要性とか、あるいは費用負担の考え方というのをもう少し明確にしないと、市民の税金を使うわけですから、なかなか理解と納得が得られないですよねという観点から質問させていただいています。
- まず、新たな交通ですけれども、瀬谷から上瀬谷までトンネルを造るのですね。連接バス専用のバスを走らせるということになっています。先ほどインターチェンジの事業費というのが出ていたのですが、改めて新たな交通にかかる、要するに地下トンネルを造るわけですけれども、事業費を今どのように考えているか伺います。
- 落合上瀬谷交通整備部長 新たな交通のほうの概算事業費につきましては、令和6年1月の常任市会のほうで報告をさせていただきまして、その際466億円ということで御報告させていただいております。
- こがゆ康弘委員 この費用、昨今は毎年のように整備費用、工事費用というのが上がっているので、昨年の1月ということなのですけれども、多分実際に工事するときにはかなり上がっているはずですね。インターチェンジも360億という話なのですが、これもこの先上昇する可能性がありますから、トータルにすると800億以上、さらに上がりますから900億とかそのぐらいの税金をかけて造るという話になるのですね。そうであれば、その必要性というのはやっぱりしっかりと打ち出してもらいたいのですけれども、先ほど来聞いてみると、新たな交通は西部地域の南北方面の交通ネットワークというのですが、瀬谷・上瀬谷間以外の部分は既存のネットワークですと。さらにその検討が進んでいませんという話ですね。
- 瀬谷駅を超えるためには、あそこの相鉄の高架を越えなきゃいけないのですが、あそこは片側1車線なんで、かなりあそこがボトルネックになるのですね。これはどうやって南北のネットワークの拡充を図っていくのか。バスを必ず乗り換えなきゃいけないとなってしまうのか、その辺を伺いたいのですが。
- 落合上瀬谷交通整備部長 今、委員の御指摘の瀬谷駅の南北に向かうときに乗換えがあるのか、直通で行けるかということにつきましては、我々のほうで南北間の乗換えを円滑にできるようなことはできないだろうかということを考えているところでございます。
- こがゆ康弘委員 瀬谷駅の構造を御存じの方がいらっしゃると思うのですけれども、あそこで乗り換え

るって相当大変というか、要するに相鉄の地下、今は多分瀬谷中ぐらいにあそこの拠点をつくろうとするんだろうと思うのですが、そうなるとそこから南側にトンネルを通して、南側にもバスの停留所を造るとか、地下の構造物を造るとか、そういうふうにしないと乗換が非常に不便になるわけですよね。

さらに言うと、そのニーズがもともとあるかどうかということなのですが、例えば上瀬谷から十日市場までのバス路線、要するに南北方向のネットワークという意味ではそのニーズがあるという前提だと思うのですが、その辺のニーズに対する調査をどういうふうに行つたのか伺いたいです。

- 落合上瀬谷交通整備部長 現状のこの地域での公共交通の利用のされ方というのがパーソントリップ調査等々で行われていますので、そのデータを使いながら、新たな交通ができた場合により早くなる方というのもいらっしゃいますし、あとこの地域、霧が丘高校であったりとか学校、この地域に向かうニーズというのですかね、交通需要もありますので、そういうところを総合的に勘案して考えていきたいというふうにやつております。

- こがゆ康弘委員 もう少し内側に横浜環状鉄道という計画もあります。そういう意味では、南北を結ぶといいのはいろいろな計画があるのですが、いずれにしろ瀬谷・上瀬谷間ということなので、そうなると露骨にテーマパークの輸送を考えているのではないと思うのですが、その部分についてはテーマパーク輸送のためだけではないのかもしれません、そういうことを想定しているということでおろしいのでしょうか。

- 村上担当理事 新たな交通につきましては、今図でお示したところがかなり交通空白地域というものがございまして、そういう地域を解消して複数の鉄道路線とつながるバスネットワーク網をつくりながら、先ほど専用道の話と併せてというふうに考えております。

上瀬谷を中心としたいわゆる本市西部地域の活性化拠点というものをダブルコアという形で、横浜中心部と併せてこれからどんどん発展させていきたいということがございまして、上瀬谷のみならず、本市西部地域、図にお示したようなエリア全体の発展につながるような、特に地域交通につきましては、高齢化が進む中での公共交通のほうにシフトという形のモデルになるようにという思いもございまして、その辺りでトータルに考えてこの交通の話を進めていきたいというふうに考えております。

- こがゆ康弘委員 瀬谷・上瀬谷間について、テーマパーク以外の需要というのをどういうふうに考えていますか。

- 村上担当理事 当然、4エリアのほうには、テーマパークは恐らく一番の需要の話になるのは間違いないと思います。ほかに公園防災エリア、あと農業振興ゾーンもできます。そういうところに訪れているお客様、あとはこの周辺地域にお住まいの方もいらっしゃいます。

ただ、委員の御指摘のように、一番の需要の数としてはもちろんテーマパーク利用者になることは想定されますが、そのほかにも、今申し上げました沿線地域にお住まいの方々、特に先ほど来話に出ています250人の地権者の皆様との話合いの中でも、やはり地域の交通への強い期待というものがございまして、そういったことを加味した形での整備になっていくというふうに考えております。

- こがゆ康弘委員 地権者の方の思いも分かりますし、周辺にお住まいの方も分かるのですが、400億とかそのぐらいかける事業ですから、連節バスをばんばん走らせるということなので、テーマパーク以外の需要というのがあるなら、やっぱりそれは税金をしっかり使うという、そういうことは理解するところなのですが、じゃ、テーマパークがどうなっているのですかということが全く見えてないので。それで環境影響評価とかいわゆる事業計画が進められるというのは、本当に必要性というのをしっかり検討するというか、今

テーマパークの事業はどうなっているから必要なんだという理屈になるのかなと思うのですけれども、今テーマパーク誘致についてどういう状況なんでしょう。

- 村上担当理事 テーマパーク事業者との話合いも我々は進めておりますが、まだ正直テーマパークがどういうものになるかということまでの内容については、以前からそれほど進捗している状況ではございません。

ただ、GREEN×EXPO の形がだんだん見えてまいりましたので、その内容を踏まえながら、テーマパーク事業にどういうふうに継承していくのかということだと、要は将来のスマートシティ構想という中で、本市西部地域のいわゆるまちづくりをどう進めるかという辺りの考え方と併せて、今いわゆるテーマパーク事業者と検討というか、話し合いを進めているところでございます。その辺りの絵姿が見えましたら、もちろん委員の皆様方にすぐにお示ししたいと思いますが、今の段階ではそういう状況だというふうに御理解いただければと思います。

- こがゆ康弘委員 テーマパークの誘致に対してはまだ進捗がありません。だけれども、いろいろな手続を進めて 466 億、もっとかかるかもしれないという、そういう工事を進めさせてくださいということなのですよね。理由はもちろん分かるのですが、昨年の 2 月に質問したときには、鉄道駅間をつなぐというのが地下トンネルを造る目的なのですという話だったのですね。

ただ、どんどんテーマパーク用の人を運ぶというのが目的になっているので、であればテーマパーク事業者といわゆる事業費についてどういうふうに考えるのかということもしっかりとと考えなければいけないと思うのですが、その点も含めて今検討しているということでおよろしいのでしょうか。

- 村上担当理事 新たな交通の目的、意義、本市西部地域の交通ネットワークの強化という意味では、複数の鉄道路線とつながる。確かに乗換えをどうするかという話はあるのですけれども、やはりほかの近傍の駅としっかりとつなげることによって、交通不便地域の解消を目指すという目的は当初から変わってございません。

さらに、テーマパークの需要というものが相当見込まなければいけないということもございます。そういうトータル的な考えの下に進めているという思想については、当初新たな交通の方針を決めたときから何か考え方方が変わっているというものではございません。

- こがゆ康弘委員 先ほど言ったように、テーマパーク以外の需要というのはそれほど多くない可能性が高くて、もちろんネットワークが構築されれば便利になる人はいるのですけれども、それに対してこれだけの市費をかけるのかどうかということについては、やっぱりテーマパークがどうなるのかということをしっかりと市民の方に知らしめて、こういう施設ができる、こういう需要があるのだということが分かった段階じゃないとなかなか理解できないので。どうなるのか分かりませんけれども、ジャングリアがどういうふうになるのかというのもあるし。そういうものを踏まえて、本当にここに新たな交通が必要なのかどうか、市費をしっかりとかけるのが妥当なのかどうか、あるいは費用についてはテーマパーク事業者としっかりと話し合って検討すべきじゃないかという点について、もう少し深く検討していただければと思います。

2 点目のインターチェンジですけれども、こちらについてもかなり議論させていただきましたが、まず新たなインターチェンジを造るための目的を改めて教えていただきたいです。

- 落合上瀬谷交通整備部長 上瀬谷にインターチェンジを造る目的につきましては、同じく計画しております広域物流拠点、大規模災害時に重要な機能を発揮してもらう、こういう施設を造りますので、そのときに

他都市からの応援とか救援物資が運ばれてくるのですが、その際、東名高速道路というものが一番重要な輸送道路になります。東名高速道路とこの地区を直結するためにインターチェンジを造り、さらにそれが広域防災拠点の最大限に機能を発揮できるようになるというふうに考えてございます。

あわせて上瀬谷の地区には物流地区を設けますので、物流のほうの＝効率性の寄与＝というものにも大分貢献すると思っていますし、地域の方が当然御利用になりますので、地域の交通利便性ということの観点からも必要だというふうに考えている次第でございます。

- **こがゆ康弘委員** 最初にお話があった広域応援活動拠点なのですけれども、インターチェンジを通じていろいろな物資がそこの拠点に運ばれてくると。ただ、横浜市で大規模災害があったときに、主に被害を受けるのは木密地域だとか、あるいは沿岸部である可能性があるので、上瀬谷からかなり大規模な被害を被るであろう中区、西区、あるいは南区、その辺までどうやって物資を運ぶのかというのが非常に課題になると思うのですけれども、こちらの上瀬谷から実際に応援物資というのを都心部に運ぶ方法というのはどういうふうに考えられていますか。

- **落合上瀬谷交通整備部長** 今、委員が御指摘になったように、海の近いほうの地域で大規模な被害があるだろうという中で、まず上瀬谷地区で他都市から受け入れる拠点というのがないと、効率というのが大分悪くなるといいますか、情報の伝達もかなり遅くなりますので、まずそういう意味で上瀬谷にある意義というのはあるというふうに認識しております。

今回、地震防災戦略に併せまして、上瀬谷を中心に緊急輸送道路の配置の見直しといいますか、環状4号線を一時輸送路ということで格上げとか、そういうような形で災害時にきちんと使える道路に周りもしていくということを併せて行っていますので、そういうことで全体的に機能するものと理解しております。

- **こがゆ康弘委員** 環状4号線は、横浜市の北部地域につながりますけれども、市の中心部に至るのは保土ヶ谷バイパスが今あるのですが、災害時に保土ヶ谷バイパスの利用も考えられているのですか。
- **落合上瀬谷交通整備部長** 当然そういうふうな形になります。

- **こがゆ康弘委員** 災害時に保土ヶ谷バイパスを使うのだと。広域防災拠点から物資を運ぶのだということであれば、保土ヶ谷バイパスが使えるという前提なので、既存の横浜町田インターから保土ヶ谷バイパスはつながっているのですが、そちらを通して応援物資をもっと市の中心部に運ぶという方法もあると思うのですけれども、こちらに広域応援活動拠点をつくるのはもちろんいいのですが、実際に被災するところに直接運ぶということになると、1つ1.5キロ先にインターチェンジがあるので、ここに何のためにインターチェンジを造って、広域防災拠点まで物を運ぶのという必要性というのはやっぱり問われるのですね。

なので、保土ヶ谷バイパスを使えるということであれば、高速道路から直接保土ヶ谷バイパスに入るほうがよっぽど効率的だと思うのですけれども、御意見を伺いたいです。

- **落合上瀬谷交通整備部長** 今、保土ヶ谷バイパスも使えるというような話を申し上げたのは、保土ヶ谷バイパスも緊急輸送道路という中では位置づけがされているので、そういう観点から当然使えるというのですか、災害時の道路の位置づけになっているというような観点でお答えしたものでございます。

実際に通れるかということに関しては、災害の状況にもよりますし、被害がなくても車両の放置とか通れない状況って十分発生すると思っています。

上瀬谷地区につきましては、インターチェンジから物流拠点を通して公園まで、今回併せて道路を整備して、広い道路で無電柱化という計画もされていく中で、車両滞留があっても排除できるとかそういうスペー

スもできていますので、災害時に確実にそこまで行けるものになっているというように認識しています。

- こがゆ康弘委員 今私が話しているのはインターチェンジの必要性ということなので、横浜町田インターで大体できるのであれば、保土ヶ谷バイパスを使って物資を輸送できるのではないかというをお話しさせていただきました。

それと2点目の、地域の皆様方の交通利便性の向上ということなのですが、先ほどのお話のとおり、環状4号線とか八王子街道とか周辺道路の整備が非常に進むのですね。そういう意味では、その周辺の人がこのインターチェンジを使って、皆さん東名高速道路に入るのかというと、周辺の道路を今一生懸命きれいにしているので、例えば八王子街道を通って上川井インターから東名高速道路に入る方法だって、これは拡幅されるので非常に便利になるのですよね。

なので、その目的もここにインターチェンジがなくても、今ちょうど地域の方々のために道を広げたりとか、道路を拡幅したりしているので、その理由もその必要性に本当に合致しているのかというふうに思うのですが、御意見を伺いたいです。

- 平原副市長 先ほどのままで広域防災拠点の話に戻りますけれども、今の横浜市の地震防災戦略だと、海老名パーキングがありますよね。あそこに物資が集まって、そこから例えばパシフィコだとか横浜アリーナだとか、そういうところに運んで、そこから各小学校の避難所だとかに運ぶ計画になっているのです。

今回、上瀬谷に造るのは、上瀬谷で全部受けます。ここから簡単に言えば、パシフィコとか横浜アリーナを経由しないで市内各所に物資を運ぼうということになっているのですね。先ほど緊急輸送路の話も出ましたが、今回の地震防災戦略の中で改めて緊急輸送路も力を入れて、きちんと機能するようにしようというふうなことなので、東名から一気にここへ来て、ここから市内各所に物資が運ばれるということで、運ぶまでの短縮ができる、そういう戦略を今練っているのです。ですから、ここにインターチェンジの必要性があるというふうに我々は考えています。

市民が便利になるというのは、できるから当然便利になりますという話で、それがメインの理由でここにインターチェンジを造ろうとしているわけではありません。ですから、先ほどの広域防災拠点の話は、そういうことで横浜市の物資輸送の仕組みを変えようということをセットで考えているということはぜひ御理解いただきたい。

- こがゆ康弘委員 災害時の物資輸送について、私は先日熊本に行きました、地震のとき、あるいは豪雨災害のときに何が重要かという話を聞いてきました。被災地に近いところに受援施設というのを設けるというのがまず重要で、そこへの物資輸送というのは道路が寸断されているから、ほとんどヘリコプターになります。ヘリコプターが離着陸できるところに受援施設、あるいは他の自治体の方だとか自衛隊の方だとかが駐留できるような、そういうところがいいですよねというお話をでした。

ここから首都圏は15キロから20キロあります。車で輸送できればいいですけれども、そうじゃない、寸断されている場合は、ここを宿営地とするのであればかなり遠い距離を、市の中心部まで行かなければいけないということになるので、実際にはもっと市の中心部あたりに受援施設というのを造ることになりますから、そういうことも含めてここに広域防災拠点というのがどういうふうにして機能するのかというのは全体として物を考えてつくっていただきたいのですが。何度も言いますが、今インターチェンジの必要性なので、そういう意味では保土ヶ谷バイパスが生きているんであれば、横浜町田インターからここにつながるところを造ればいいのではないかということです。

もう一点、必要性で言われているのが既に御案内のある物流地区の施設が御提案されているということなのですが、これは三菱地所さんとかが発表しているものなのですけれども、最初に発表したのは京都、そして次に仙台、同じような新しい輸送、次世代基幹物流施設というのを造る。この3か所目ということで発表しています。

ただ、先に発表した2か所というのは、既存のインターチェンジに付随する形で自動運転システムのところに入していく道路を造るという、要するにインターチェンジそのものを造るんじゃなくて、もともとあるインターチェンジから引っ張ってくるという計画なのです。

なので、ここにインターチェンジをいきなり物流施設のために造るという、そんなイメージになるのですが。どっちかというと、これも横浜町田インターからほかの2か所と同じように、自動運転システムのところに専用道路をつなげていくという方法もあったのではないかと思うのですけれども、そちらについてはどうなんでしょうか。

- **村上担当理事** 先ほど御説明申し上げました、もともとの土地利用基本計画策定時から4ゾーンについての議論が地権者の方とずっとさせていただいたところで、物流ゾーンというものが、これは本当に地域の皆様も将来の土地利用を上瀬谷の発展のためにどうしたらいいかということの議論を重ねてできているところでございます。

そのときにこれは地域の皆様からのお話もございました。横浜市のはうとしても、新たなインターチェンジを造ることによって、新たな物流拠点というものが先ほど申し上げました次世代基幹物流ですとか、新しいフィジカルインターネットというような、本当に日本を牽引するような物流施設になるということも含めて検討が進められてきたところでございます。

それと防災機能と併せ持って、横浜市民の皆様にとって大事な事業ということで、地域の皆様、横浜市民、皆様にとっての重要性ということを鑑みて、新たなインターチェンジというものの検討が進められてきたということでございます。

- **こがゆ康弘委員** 今私が言ったのは、いわゆる物流施設が必要であればここに造るというのはいいと思います。ただ、それに対して新しいインターチェンジを造るという必要性が本当にあるのかどうかで、先ほど言ったように、ほか2か所は既存のインターチェンジでつなげていますし、横浜町田インター、もともと土日は物すごく大渋滞するので、ここもレベル4の自動運転をやったら、大渋滞の中でここに入ってくるという話にもしかしたらなるかもしれないですね。そもそも東名高速道路が渋滞するので。そういう問題もあるのですが、いずれにしろ既存の横浜町田インターから車線以降、物流施設に入っていく。この前の京都だとか仙台とかそういう方法と同じ方法もあるのではないかというふうに思っています。

レベル4の自動運転というのは、今政府が進めていますが、実用化というか、なかなか進んでいないですね。そういう中で、社会実装はまだまだ先というふうに言われている中で、これを見越したものを作ることになるので、そこも含めてやっぱり必要性というのはしっかりと検証していく必要があると思います。

それと、先ほど宇佐美委員のはうから言われたように、専用ランプを造るのですね。専用のランプウェイというものを造るわけですから、物流事業者にとっては物すごく便利なインターチェンジになるので、造るということになるのであれば、事業負担の割合というのは大部分そういうふうになるのかなというふうに思います。

先ほど事業費というのを精査しているので、その辺は分かりませんと言っていましたが、であれば負担割合ぐらいは分かるのではないかというふうにも思います。

それから、物流の自動運転化というのは、国策というか、国家戦略でもあるので、そういう意味では国に対しても費用負担を求めているというのも当然だと思います。

いずれにしろ、横浜市の税金というのをこれだけ出すということであれば、ある程度市民の理解も必要だし、それからまだどうなるかも分からぬよねって。テーマパークもどうなるか分からないし、物流施設も、レベル4だってどうなるか分からないということに対して、いろいろな計画を前に進めますからといって外堀を埋められるという状況になっているので、そこはもう少ししっかりと具体化してからこういう計画を前に進めるべきかなと思うのですけれども、その辺についてどなたでも。

- **村上担当理事** 新しいインターチェンジは、物流施設と直結するというところに一番の意義があると思っていますので、いわゆる乗換えなしというか、先ほどの城陽とこのエリアを自動運転で来て、ほかの道路を経由せずに直結するというところでの基幹物流の立地を牽引するというような、直結というところに大きな意義があると思っております。

先ほど委員の御指摘がございましたような費用負担につきましては、当然物流事業者、あと国、それからNEXCO中日本とも負担のほうについてはしっかりと求めていく予定でございますし、負担割合を初めから決めてということもございますが、我々としてはある程度念頭に置きながら、その辺りの協議は行っているところでございます。

- **こがゆ康弘委員** 最後にしますが、いずれしろここで2つの地下トンネルとインターチェンジを造るという必要性については、よくよく市民の理解と納得を得られるような、そういうものにしてもらいたいと思います。さらに言うと、費用負担もそうですよね。そういうのをしっかりと検討の過程であるとか、テーマパークのためにみたいなところもあるわけです。トンネルだってそうだし、あるいはインターチェンジだってテーマパーク利用者だって使うでしょうから。あるいは物流のためということなので、そういう理由をしっかりとつまびらかにして、今こういう検討の状況になっていますというのをしっかりと公表するというか、公開するというか、そういうことにぜひ努めていただきたいと思いますが、最後に何かございますでしょうか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** このような計画をするに当たっては、しっかりと市民の皆様方の御理解を頂けるように整理して、しっかりとお伝えしていかなければいけないというのはそのとおりだと思いますので、今こうやって進んでいる計画を含めて、しっかりと整理して、市民の皆様方、あるいは委員の皆さん方にも、いわゆるこういうところが全く分からないよということがないように、できる限り整理して示していくようにしたいと思います。

- **花上喜代志委員** 今のやりとりは大変大事な話だろうと思って聞いていましたけれども、長年にわたって平原さんは都市整備関係で関わりを持ってやつてこられたんで、あえて伺いたいと思いますけれども、上瀬谷地域のまちづくりというのは、都心部だけではなくて郊外部の拠点づくりということで、特に西部地域のまちづくりを進める、その核となる計画だと思うのですよ。

だから今の話を聞いていて、上瀬谷のまちづくりを進めていく上でインフラの整備を具体的にどのように進めていくかというのは、長年にわたって議論してきた、そういういきさつがあるわけで、まず1つ聞きたいのは、宇佐美さんがさっき聞いていたけれども、インターチェンジはスマートインターチェンジかどうか

というような話をさっきしていましたけれども、これはスマートインターチェンジじゃなくて本格的なインターチェンジという説明を聞いてきたんだけれども、それは間違いないでしょう。

- 村上担当理事 間違いございません。
- 花上喜代志委員 それで、物流施設の計画というのは、国の方針として物流革命を進めていくと。東名高速道路の主要なインターチェンジに物流の拠点をつくっていく、国土交通省から私も何度も話を聞いてきたので、その流れの中で上瀬谷のインターチェンジを造っていく必要があると。こういうふうに説明を聞いてきたわけであって、それに物流だけではなくて、さっき話があったテーマパークに今まで説明を聞いていたのは、年間に 1500 万人もお客様が来ると。三菱、東急、相鉄、それが総がかりでその計画を今練っていますと。こういう説明も聞いてきたので、防災拠点の話だけとか、あるいは物流の話だけではなくて、トータルできちっとした説明をしていかないと市民の理解が得られないと思うので、その辺を間違えてはならないというように思うのだけれども。

そこで平原さん、今まで長年積み上げてきた議論を踏まえて、この計画がここまでまとまってきたということなので、平原さんの思いはかなりあると思うので、今の議論を聞いていてどう思っておられるのか、改めて聞きたいと思います。

- 平原副市長 先ほど鴨志田委員の御質問にお答えしましたけれども、70 年間使えずにいたと。インフラ整備もできていなかった。我々も投資する、例えば道路を造るにしても何にしても、そういうことができない状況だったわけですね。

簡単に言えば、環状 4 号線、瀬谷から上瀬谷まではバスなんか一切走っていません。市民の足もないという状況なのです。ただそれが返還されて、いろいろ状況が変わってきて、地権者の思いを聞きながら、土地利用の計画をずっと積み上げてきた。地権者の発案もあって、テーマパークだとか物流施設だとか、こういう計画で有効利用を図りたいというふうな話でここまで来たわけです。

今回の市長の公約でも、市長は都心臨海部と上瀬谷をダブルコアといいますか、ツインコアといいますか、都心部と郊外部の、特に上瀬谷郊外部の拠点にしたいんだというふうなことを訴えてきました。我々も全くそういう思いで、改めて今回市長は公約でそういうふうな言い方をしましたけれども、私どもとしてはその思いは今までずっと持ってきていて、上瀬谷が何もできていなかつたということを踏まえて、地権者の思いを大事にしながらこういう計画をつくってきたということで。検討の度合いがそれぞれ違うところがあって、同じタイミングでどんと公表できないのですが、例えばテーマパークなんかも三菱地所を含めいろいろな企業さんがグループを形成して検討しています。

今年新しく企業グループに追加された企業さんたちがいます。それは、テーマパークというとてもデリケートな話なのでなかなか話は我々にも教えてもらえないですが、彼らの中で検討が進んでいるのは事実です。ただ、それをまだ公表できる段階じゃない。そこは私どもとしても歯がゆいところなのですが、いずれにしても上瀬谷全体の土地利用計画を 4 ゾーンに分けて整理てきて、それは地権者の思いを基に整理ってきて、これから、さあ、横浜市がここに力を入れていくぞという場所ですから、いろいろ御質問はあると思います。市民の理解を得なきやいけないということもよく分かります。ただ、そういう今までの経過の中で積み上げてきた計画ですので、もう少し市民の皆様に分かりやすく説明するという宿題は頂きましたが、この計画に沿って私としては着実に進めていきたいという思いであります。

- 花上喜代志委員 今の話、大事な過去のいきさつを踏まえての話なので、しっかり我々も受け止めなきや

いけないと思うのだけれども、特に地元の瀬谷の議員とすれば、米軍が七十数年にわたって接収して、まちづくりを全然横浜市ができなかつたと。こういういきさつがあつた中で、これから瀬谷だけじゃなくて、西部地域の拠点づくりを進めていくという市の方向性というのは正しいと思うのですよ。

今まで瀬谷は一切バスを海軍道路に通すこともできなかつたという、それで家を建てるにも建築基準法だけじゃなくて、米軍の通信障害に影響を与えないような建物でなければ許可が取れないという私権が制限されていた地域の中で暮らしてきたという立場から言えば、基地が返還されて、いよいよこれからまちづくりが進んでいくということになれば、郊外部の拠点としてのインフラ整備はしっかりと整えてもらわなきやならない。こういう思いが地権者だけじゃなくて、全体的にあの地域を知っている人たちの意見だと、こういうふうに思うわけです。

ですから、物流ゾーン、それからテーマパークなどの観光・にぎわいゾーン、こういったところの計画をしっかりと打ち出してもらって、後々問題を起こさないような、批判を受けることがないような計画にまとめていかなきやいけないと。

今、平原さんがおっしゃつたけれども、三菱、相鉄、東急のグループがテーマパークを検討している。検討の中身が明らかにならないので、いろいろな不安とか疑問が出てくるわけなんだけれども、年間 1500 万のお客様を集める計画ということで、今内部で相当な取組が検討が行われていると。それを聞いているだけに、逆に批判的な考え方よりも期待を持つという、そういう市民も数多くいるわけであつて、結果的には横浜の西部地域の拠点のこうした施設として、物流施設、それから観光施設、そういうものが出来上がって、それで交通ネットワークについても南から北、そちらにしっかりと交通インフラを整えていくと、このことが非常に重要であつて、瀬谷駅が拠点にはなるんだけれども、北は十日市場、南は立場、環状 4 号線にバス路線を通していくと、この考え方は地域の皆さんにとっては目が輝くような期待の持てる、希望の持てる計画だというふうに地域の人はみんな受け止めているわけですよ。

ですから、説明をきちっと皆さんにはしてもらわなきやいけないので、不安を持たせるような言い方ではなくて、きちっとした納得できる、してもらえる、そういう説明をしていただきたいということなので、時間はかかるともちゃんと説明をして、皆さんに理解されるような、そういう質疑をしてもらいたいな、そういうふうに思います。

環状 4 号線は、今まで本当に交通貧困地域で、バス路線が通っていないような状況の中で、市民生活が非常につらい状況にあつたと。この計画が出てきたんで、いよいよ環状 4 号線が機能してくるということで、みんなが期待している。そういうプランなので、これはぜひしっかりと進めさせていただきたいというふうに思うので、皆さんしっかりともらいたいと思いますよ。

今まで積み重ねてきた議論を今後も計画どおりに実現していくような、そういう取組をしっかりと進めていただきたいと強く要望したいと思いますが、所感をぜひ語ってください。

- 平原副市長 先ほどもるる御答弁しましたが、委員がおっしゃるとおり、今まで地元の皆さんと積み上げてきた計画なので、これはきちんと進めていきたいというふうに思います。ただ、ほかの委員の皆様方の御指摘のとおり、ほかの一般の市民の方たちにもきちんと理解されないと、税金を投入するわけですから、そこはやっぱりきちんとやっていかなきやいけない。ですから、花上委員の御指摘、それからほかの委員の御指摘もちゃんと踏まえて、正々堂々と進められるようにしっかりと取り組んでまいります。

- 花上喜代志委員 お願いします。

- 久保和弘委員 何点かお伺いさせていただきたいと思いますけれども、土地区画整理事業の進捗状況という中に、調整池というものが整備されているということで、幾つかあるようなことを伺っておりますけれども。ちょうど1年前の令和5年の決算特別委員会のときも質問させていただいたのですけれども、近年の気候変動、線状降水帯の浸水対策が必要であるという中で、上瀬谷地域も浸水対策が必要になるという認識がありましたけれども、具体的に6か所を設置するということありますけれども、また雨水幹線もしっかりと巡らせていくということありますけれども、浸水対策に対する防災減災の取組というのが現状どのようになっているのかというのを確認させてください。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 今、委員のおっしゃるとおり、調整池というものはここでは地区に相沢川と大門川流域、もう1つ堀谷戸流域という3つの流域があるのですが、ここで今までいわゆる草原のようなところだったのですが、これから都市化などが進んでいくと、下流の河川に一気に水が流れ込むということで、その水を抑制するという意味合いの中では、やっぱり調整地のようなものが必要になってきます。
- 併せて上瀬谷地区、今お話をあったように、今まで下水ですか道路といったものが全く整備できなかつたというところもありまして、それを整備すると同時に、ここの雨水対策というものをしっかりとやっていくために、このような調整地の計画が必要になってきたということでございます。
- 久保和弘委員 市の計画の中でも浸水対策における下水道局のほう、目標整備水準を1.1倍にしていくというような新たな浸水対策の基準もしっかりと打ち出されているところでありますけれども、しっかりとそういうことも網羅しながらやっていくんだという認識でありますけれども、そういうことでよろしいでしょうか。
- 渡邊上瀬谷整備事務所長 市の基準にものっとりまして、また国の基準にものっとりまして、しっかりと整備していきたいというように考えております。
- 久保和弘委員 もう1つ趣が変わりますけれども、上瀬谷地区全体で市の地球の温暖化対策実行計画においても、エリア全体での脱炭素化を進める、また再生可能エネルギー等の普及を努めていくというようなお話をたしか計画に盛り込まれていたようなことがあったと思いますけれども、例えば今、本市の取組の中でもオフサイトPPAという事業があります、いわゆる調整池や池に太陽光パネルを設置していくと。
- 先日、栄区で設置された場所も視察させていただきましたけれども、非常に広大なエリアに平時はドライのときは太陽光パネルがきちんと地上にあって、水が上がればフロート式で浮き上がっているというような、そういう最新の技術を入れながら、太陽光パネルの設置を脱炭素化の取組の1つとしてそういう取組をなされておりますけれども、こちらの地域、上瀬谷全体ではそういうことをやられるのか。他方、自然科学といいますか、水辺の空間を自然を生かした取組も必要だという相反するようなこともあるかもしれませんけれども、一応考えだけ伺っておきたいと思います。
- 岡崎脱炭素社会移行推進部長 5ページ右側に図があると思うのですけれども、5ページの右上の水色の部分と左下の細長い水色の部分、ここは2か所池があるのでありますけれども、合計3か所今事業者を公募していまして、オフサイトPPA等の事業者公募ということで今やっていますので、幾つかつくのではないかなと。
- 会場内に池がありますけれども、そこは地下ということなんで、太陽光の設置には適していないということで対象から外している、そういうのが現状でございます。
- 久保和弘委員 私も今初めて知りましたけれども、地区全体で脱炭素化もしっかりと進めていくというようなこともありますので、先ほど来いろいろ最新技術を使いながらというのもありますけれども、自然環境を

生かした取組と併せて進めていただきたいということをお願いさせていただきたいと思います。

もう1つ、新たな交通についてでございますけれども、先ほど事業費等のことについていろいろなことがありましたけれども、ただ私のほうは地域の住民の声というようなことで、そちらの側面からで確認させていただきたいかと思うのですけれども、先ほど来る御説明がありましたけれども、端的に言うならば相鉄線の瀬谷駅を起点とした場合には、上瀬谷まで専用道、いわゆる専用のBRTといったらいいんでしょうか、といったものを走らせますよと。それは十日市場等まで延伸する可能性があると。

片や相鉄の南側のほうは、先ほどあった泉区のほう、立場のほうですとか、そういうところに向かっていくということで、それはいわゆる一般道を走る見込みであるというようなことの説明がありましたけれども、瀬谷駅の構造をどのようにしていくのかと。ターミナルを地下で工事を進めていくようなことも伺っておりますけれども、相鉄線、線路を越えるには現状の立体化された環状4号線がありますけれども、あそこはたしか暫定利用の環状4号線の橋脚がかかっているかと思います。その辺を含めて西部地域の利便性の向上のある新たな交通という側面からして、どのように瀬谷駅というものをあつらっていくのかという、ターミナルを考えていくのかという現状を教えていただきたいと思います。

- 落合上瀬谷交通整備部長 今、委員のお話ありました瀬谷の大和側にかかっている陸橋につきましては、おっしゃるとおり暫定の形になってございます。先ほど来からネットワークにつきまして、南北一気通貫で行くという考え方もございますし、乗換えの利便性を確保してあげるダイヤの工夫とか、そういうソフト的な面の工夫というのも当然ありますし、そこら辺を組み合わせてやっていく必要があるのかなというふうに認識しています。

現状、こういう形でやっていきますというところまではまだ検討が至っていないというか検討中ですので、そこは今後の検討の中でこういうことでネットワークが確保されると、利便性が確保されるということを説明させていただければなと思ってございます。

- 久保和弘委員 今全て御説明があったわけじゃありませんけれども、現状、あそこは瀬谷中学校がありまして、瀬谷中学校が移転した旧瀬谷西高校の跡地ということになっておりますけれども、そちらに瀬谷中学校が移転するというようなことを含めて、瀬谷駅のターミナルがどうなっていくのかというようなことと、併せて瀬谷駅北口のまちづくりという視点も当局の所管から外れるかもしれませんけれども、副市長、瀬谷のまちづくりの中で先ほど中学校の移転も含めて、そういう相対的な見方も必要じゃないかと思うのですけれども、その辺市はどのように考慮しているのか、現状見えているところがあれば確認させていただきたいと思うのですけれども。

- 平原副市長 先ほど委員から環状4号線の陸橋が暫定だというお話が出ましたけれども、環状4号線としては都市計画道路、車線は引いてあるのですけれども、暫定です。暫定の意味は、相鉄線を地下化するという計画があるんで暫定だと言っているのですけれども、お金もかかりますし、かなりの大規模な工事になるので、実現性を含めてどうなるかということはあります。

ただ、地下化されて、環状4号線が平面化されれば、南方面へ、極端に言えば十日市場からすぐバスが行けるという物理的な条件は整いますが、かなりハードルは高いです。

2番目の質問の今の瀬谷中学校のところなのですが、あそこはターミナルにしたいと思っていますけれども、駅前なのでターミナルだけではもったいないので、上部全部利用できるとは思えませんが、余剰地があれば新しい施設の誘導なんかも図りながら、単にバスターミナルだけではなくて、地域の活性化につながる

ようなまちづくりをこれから併せて考えていきたいというふうに思っています。

- 久保和弘委員 今貴重な御答弁いただきましたけれども、上瀬谷の新たな交通として地下の空間をどうしていくようなことも含めて、上辺の瀬谷駅全体のターミナルとして新たな上瀬谷の入り口、出口としての機能もしっかりとやっていく必要があるというふうに思いますので、その辺もしっかりと進めていただきたいと思います。

あまり長くしたくありませんけれども、1つ地域の御要望として、仮に事業費のことは置いておいて、途中に要は瀬谷駅から上瀬谷駅までの間、バス停というのでしょうか、駅というのか、その間に中間の駅が欲しいというような声は地域からあるのは事実だと思うのです。その辺をどのようにお考えになっているのか。これが鉄道であればなかなか中間駅は設置が難しいという側面はあるのですけれども、B R Tというか専用道で行っていくということであれば、具体的な連合町内会長さん含めて私の方に御意見も頂いておりまして、そういう中で、地域の利便性の向上に資するという地域の足だということの側面もアピールできれば、より地域の方からの納得も得るんじゃないかなと、このように思うわけですね。

ですので、上瀬谷のアクセスということを含めながら、地域の利便性の向上もしっかりと取り込んでいくとか、このような考えが必要だと思うのですが、その辺費用対効果も含めてのことになりますでしょうかけれども、現状どのような認識なのか伺います。

- 村上担当理事 実際に瀬谷から上瀬谷のエリアまで専用軌道で地下ということで考えてございます。中間駅をどうするかという取扱いについては、なかなか構造上難しいことではございますが、ただ地域の皆様の御意見があることも承知しております。

そうした中でどういう形が地域の皆様にとってアクセスしやすくなるのか。例えば、瀬谷と上瀬谷の専用軌道の中で中間駅という扱いになるのか、もしくは上瀬谷の駅からのアクセスをどういうふうにするのかということも含めて、地域の皆様としっかりと話を進めていかなければというふうに思っております。

- 久保和弘委員 地域のお声を聞いて、事業採算性の中で最大公約数を出していただくことをお願いしておきたいと思います。

最後になるのですけれども、これからではあると思うのですが、やはりバスの運行になると定時性の確保という側面が1つ大事だと思います。バスであってもきちんとダイヤを守るということありますけれども、鉄道であれば割ときちんと遅延せずに行くかと思いますが、バスであると割と遅延が生じるということがあるので、バスの新たな交通の定時性の確保ということについてはどのように現状捉えているのか、最後これだけ確認させていただきたいと思います。

- 村上担当理事 先ほど申し上げました、専用軌道以外のところの既存の道路を使ったバスの話だと思います。そちらにつきましても、今回新しい交通の中で次世代型のバスシステムというものを導入しようと思っていますので、そうした中で、多分道路交通とも併せながら、定時性確保という新技術をうまく取り入れながら検討を進められたらというふうに思っております。

- 久保和弘委員 そこはしっかりとやっていただきたいなと。あとハード面の駅、停留所のことも現時点からしっかりと環状4号線をどのようにバス停とされるところを確保していくのか。要は、動き出してから土地が誰かに違うところに利用されましたということであってはいけないと思いますので、要望させていただきたいと思います。

- 大桑正貴委員長 他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

◇

◎ 寄附受納について

- 大桑正貴委員長 次に、寄附受納についてを議題に供します。
当局の報告を求めます。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 寄附受納について御説明いたします。
資料4を御覧ください。本日は、3件の寄附について御報告します。
1件目は、非化石証書の寄附でございます。寄附者は株式会社横浜銀行様、数量は453万キロワットアワー、226万5000円相当でございます。受納日は令和7年6月13日、受納目的は横浜市役所の温室効果ガス排出削減のためでございます。
2ページにお進みください。2件目は、地方創生応援税制、企業版ふるさと納税を活用した寄附でございます。寄附者は2ページから3ページに記載しております合計17社、受納金額及び受納日は、資料のとおりです。受納目的は、GREEN×EXPO推進事業のためでございます。
3ページ目の下段を御覧ください。一般寄附でございますが、寄附者は株式会社横浜銀行様、受納金額は58万1880円、受納日は令和7年8月20日、受納目的はGREEN×EXPO推進事業のためでございます。
説明は以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 大桑正貴委員長 ありがとうございます。報告が終わりましたので、質疑に入ります。
特に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。
以上で、脱炭素・GREEN×EXP推進局関係の審査は終了いたしました。
本日の審査は全て終了いたしましたので、委員会報告書を議長宛てに提出いたします。
次回の委員会日程ですが、9月19日金曜日午前10時より、委員会室4において開会いたしますので、よろしくお願ひいたします。

◇

◎ 閉会宣言

- 大桑正貴委員長 本日の議題は全て終了いたしましたので、委員会を閉会いたします。

閉会時刻 午後1時55分